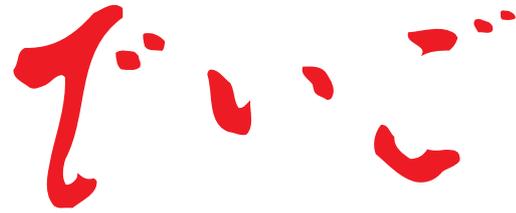


沖縄国際大学図書館

沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号
〒901-2701

TEL (098)892-1111(代) 内線2104・2105

FAX (098)893-3274・0019



沖縄国際大学図書館報

目次

冲国大図書館の現状と課題	
図書館長 武田一博	1
図書館を歩く	
法学部教授 小西由浩	3
「大学図書館について思うこと」	
経済学部講師 島袋伊津子	4
米国の図書館びっくり体験記	
産業情報学部教授 宮森正樹	5
図書館との出会い	
総合文化学部准教授 森庸夫	6
大学図書館を活用しよう	
総合文化学部准教授 山口真也	7
図書館を最大限に活用しよう	
法学部法律学科4年次 下地優貴	8
図書館と私	
経済学部地域環境政策学科3年次 翁長修一	8
図書館を利用して	
産業情報学部企業システム学科2年次 満名千夏	8
図書館の魅力	
総合文化学部日本文化学科3年次 山城歩	8
図書館のマナーを守ってください	
地域産業研究科 地域産業専攻2年次 李鵬飛	9
『緑』を記録するもの	
地域文化研究科 人間福祉専攻2年次 滝友秀	10
図書紹介	
『山月記』	
経済学部准教授 松崎大介	11
学科長が新入生に薦める5冊(種類)の本	12
図書館オリエンテーション/図書館ワークショップを開催	13
平成18年度 書評・映画評賞	14
世界が二つに割れる秋 江藤淳著『妻と私』に見る「時空の分離」	
法学部法律学科4年次 伊禮司	15
『ジュリアス・シーザー』におけるブルータスの人物像について	
-ブルータスの考える正義とは-	
総合文化学部 英米言語文化学科3年次 池宮沙織	17
図書館利用を通して 津波古寿美	20
新図書館開館から10年目に向けて	
前図書館次長 新川宣安	20
平成18年度 著者寄贈図書	22
モーツァルト生誕250年記念行事開催	
オペラ作品連続上映会とギター演奏会の夕べ	23
「アーサー王伝説の旅」講演会	23
台湾東海大学学長が図書館を視察	23
武田一博図書館長が講演(沖縄県大学図書館協議会総会)	23
嘉数津子様からの寄付金による教育関係資料の整備	23
高校生の「就業体験」	24
普天間高等学校生	24
浦添高等学校生	24
図書館見学・視察一覧(平成18年度)	24
嘉数中学校生「職場体験」	25
志真志小学校3年生が図書館見学	25
図書館活動(平成18年度)	25
窪コレクション、坂出コレクションの整備	26
「米軍ヘリ墜落事故関係資料コーナー設置」プロジェクト会議	26
図書館防災訓練実施	26
心理カウンセリング専攻学生のポスターセッション	26
図書館職員が永年勤続者として表彰される	
(九州地区大学図書館協議会)	26
選書委員会を設置	26
平成17年度 図書館統計	27
平成17年度 図書館利用状況	28
図書館短信	30
図書委員会の動向	31
平成18年度私立大学等研究設備整備費等補助金交付内定	32
人の動き	32
電子ジャーナル及びオンラインデータベースの整備	32
利用しよう「図書購入希望申込」制度	32
編集後記	32



沖縄大図書館の現状と課題

図書館長 武田 一博
(法学部教授)

「知の殿堂」とか「象牙の塔」と長らく謳われた大学が、「教育産業」さらには「サービス産業」と言われるようになってもう二、三十年になるでしょうか。いまだにこうした呼称になじめない、古い大学イメージにとらわれている私ですが、それでも大学図書館が、学生・教職員はいうまでもなく、一般市民にも開かれた、高度な知的・文化的情報を提供するサービス機関である(べき)ことについては、私はいささかの疑問ももちません。

昨年4月に図書館長に就任して以来、「利用者本位の図書館サービス」をモットーに、さまざまな人の声や意見を聞きながら、おかしいところ、変えるべきところは大胆に変えてきたつもりですが、それらはいまだ不十分であります。とりあえずここで、本学図書館の現状と課題について私の考えるところを述べさせていただき、将来のさらなる発展につなげていってもらえればと思います。

沖縄大図書館は現在、蔵書数35万冊、受入雑誌数2,350種、年間資料費1.47億円、年間購入図書数1.5万冊、年間入館者40万人、年間貸出冊数6.2万冊などとなっています。これらの数値は、本学の規模(学生・院生数5,800人)からすれば決して大きくはありません。たとえば姉妹校などの蔵書数・受入雑誌数を見ても、熊本学園大(学生・院生数7,400人)72万冊・3,250種、桜美林大学(同7,200人)44万冊・2,900種、札幌学院大(同5,200人)48万冊・4,600種、鹿児島国際大(同4,700人)60万冊・2,550種となっています(ちなみに琉球大学(同7,800人)は91万冊・5,600種、年間資料費2.6億円)。これらと比較すると、本学図書館は「まだまだ」というところではないでしょうか。

さて、それでも年間の図書・雑誌購入費(私大助成金を含む)が1.5億円近くもあるというのは、決して小さい額ではありません。その予算の内、9,700万円ほどが図書の購入・整理費に充てられ、それ以外が新聞・雑誌・その他という割り振りで、新聞・雑誌類は定期購読ですので、予算執行上はそれほど問題ありませんが、とはいえ、利

用頻度が低いのに購読料は高い雑誌がいくつもあるようです。他大学図書館とのILL利用で雑誌論文のコピーは入手できますし、これから費用のかさむ電子ジャーナルへの切り替えを考えると、今後見直しが必要でしょう、問題は図書の購入です。

新規購入する図書の選定作業は、これまで(大学院関係や郷土資料・貴重図書などを除いて)その大半は、本学専任教員に個人的に申請(選書)してもらった整備図書制度を通して行なわれてきました。しかし、年に2回(4月と7月)、1人当たりの予算約30万円分をまとめて(ISBNも調べて)記入する煩雑さからか、申請者は例年4割にも届きませんでした(申請される本も、特殊な専門書が多く、学生向けの本は少ない)。そのため、ある専門分野の蔵書が弱かったり、学生向け・一般向けの図書や事典類が十分揃わないといった、本学図書館の蔵書バランスに欠ける面が出てきたと思います。



カリフォルニア大学サンディエゴ校図書館

それで、今年度からこれを抜本的に改めることにします(図書委員会の審議・承認済)。まず整備図書は、4月から9月末までなら、いつでも、何回でも、1人当たりの予算の範囲内で(約30万円は据え置き)、申請(メール可)できるようにします。さらに、1億円弱の予算執行をスムーズに行なうためにも、蔵書のバランスをとるためにも、昨秋立ち上げた選書委員会(図書館学・博物館学の専任教員と図書館長、整理係長の5名)で、

選書作業を年度初めから精力的に進めて行きます。選書委員会は、全学的観点に立ち、学生や教職員のニーズや専門性に配慮しながら、本学図書館に必要な図書(とくに文庫・新書・選書・ブックレット類、事典・辞書類、全集・選集、叢書類、講座・入門書など)を選書します。とくに新刊書(学術書のみ)に関しては、「見計らい図書」を毎月十数社から取り寄せ、現物を見ながら選書作業を行なう予定ですので、これまで以上に新刊書がすみやかに入荷・配架されていくことになると思います。これによって、先生方の整備図書の申請作業も軽減されると思われますし、これまで「読みたい本がない」「先生が授業で薦めた本が入っていない」などの不満が強かった学生向けの図書の充実も、抜本的に解決されるのでは、と考えています。なお、文庫や新書、選書類に関しては、今年度の遅くない時期に、2Fにコーナーがお目見えします。期待しててください。

学生のための図書で言えば、従来から「購入希望図書」制度があります。これは、図書館に所蔵のない図書でも、カウンターにある申請用紙に記入・提出してもらえば、新規に購入して、利用に供する制度ですが、年間2~30冊ほどしか申請がありません(職員および非常勤教員も利用できます。ただし学外利用者はできません)。ぜひ、多くの皆さんがこの制度を活用されることを希望します。申請された図書(映像・音楽CDも可)は、選書委員会で検討の上、すみやかに購入の可否を決定し、申請者に通知します。

もう一つ、学生向けの図書の充実のために今年度から新たに導入したのが、シラバスに掲載された参考文献はすべて、図書館サイドで(所蔵のないものは購入して)揃え、利用できるようにしたことです。先生方には(非常勤教員も含め)今後、シラバスにできるだけ多くの図書を記載してください。これらの本は、従来の指定図書制度 教員が受講生に読ませたい本を図書館に申請し、指定コーナーに配架するもの。利用は館内のみ、貸し出し不可 とちがい、一般配架し、貸し出しも行ないます(指定図書制度もしばらく続きます)。

ところで、図書館は、図書や雑誌の閲覧・利用サービスのほかに、多面的な文化の発信基地としての役割も、今日ますます重要となっています。しかし、本学図書館の映像・音楽関係のライブラリーは、まだまだ貧弱です(授業用ビデオを入れ

ても8,500点ほどしかありません。映画・音楽CDが殊に少ない)。これを抜本的に強化するために、今年度から予算措置(とりあえず全学用図書費の内の100万円)を講じ、計画的に収集をはかっていく予定です。また、講演会や上映会、演奏会なども旺盛に行なっていきたいと考えています。ただし、大学にこの面での大幅な予算の増額を認めてもらう必要があります(現在は、年1回の講演会用の予算のみ)。

文化活動を強化する上で私がとくに重視したいのは、4Fホールの改装です。現在のAVホールは、座席が硬く窮屈、ステージが狭い、控え室がない、音響・映像機器が悪い、照明装置がないなどの不満が寄せられています。それらを早急に解決するだけでなく、他大学(たとえば鹿児島国際大学)の最新図書館のように、演奏会や小演劇なども上演可能な多目的ホールに改装することができれば、すばらしく多様な文化的取り組みが可能となるでしょう。

最後に、図書館の充実のためには、大学の図書館職員政策(採用、配置、養成)を根本から見直してもらうことが決定的に重要です。というのも、現在、図書館専任職員の多くは司書資格を持っていないし、たとえ持っていたとしても3年~5年で他の部署に配置換えになります。これでは高度な図書館サービスは望めません。アメリカ並みには言いませんが アメリカでは、すべての図書館職員が専門職として、専任で、かつ固定配置です。つまり配置換えは、本人の申し出がない限り行なわれません。この点に関しては、『沖縄県図書館協会誌』第10号(2006)の拙稿をご参照ください、せめて2,3人でも、専門職としての図書館職員の固定配置(ないし養成)がぜひとも必要です。高度な専門職としての図書館職員がいてこそ、高度な知的・文化的サービス機関として、真に沖国大図書館の社会的役割が発揮されるだろうと思います。



鹿児島国際大学附属図書館
視聴覚ホール「ホワイエ」

(たけだ かずひろ)



図書館を歩く

法学部教授 小西由浩

最近あまり聞かなくなってきた気がするが、十数年前この大学に赴任してきた頃、学生達は何処其処に通っていることを表わすのに「～を歩いている」という言い方をしていた。この表現を借りれば私は「図書館を歩いて」いた。私の出身大学では、大学院生には4名に1室の割合で研究室が割り振られていた。それだけでも恵まれていたと今では思うのだが、そのときの研究室には古株の博士課程の先輩達がいてなにやら訳のわからない言語（かろうじて日本語であることだけはわかる）で話をしている。修士課程に入ったばかりの私には、あまり居心地のいい場所ではなかった。図書館の書庫に入れるのは教員や大学院生にのみ与えられた特権であったので（沖国大の図書館はなんと民主的であることか）、いきおい私の足は図書館に向かう。かくしてバブル景気の世の華々しさとはまったく無縁な図書館の書庫が私の「歩く」場所となり、その後、私自身が意味不明な言語を用いる古株になるまでそれが続くこととなった。

書庫はよかった。なんといっても「風土」が良い。適度に管理された温度と湿度、照明は十分なのだが全体的に薄暗い感じ。当たり前ではあるが抑制された色彩。見知らぬ人に対する敬意を払いながら、お互いに干渉しない人達（こんな場所で携帯を鳴らしたりするのは最低だ。授業中に鳴っても苦笑い程度で済むのだが図書館でのそれには我慢がならない）。そこでは、いやでも色々な本が目に入る。それらはまるでワインセラーのように良い状態で保存されている。（そういえば、イギリスの図書館では本を齧るネズミ対策としてネコを飼っていたという話を聞いた。ウチのネコには無理だろうな）。このような書庫を歩いていると、何となく自分も高尚なものの一部になった気がして、というよりは語るに足りぬ自分のことを忘れて、居心地がよかった。

その後の私はしだいに書庫に足を向ける回数を減らすようになってしまった。大学教員という職に就き、研究室という繭玉を得たためである。いまや図書館は「必要」のあるときに行く場所となっ

てしまった。必要性なり目的なりを考えれば、最近ではインターネットという「効率的」な手段がある。この効率化は今後も進行するだろう。「お前に必要な情報はこれである」と自動的に提供されるような「便利」なシステムも出来るかもしれない。しかし、必要、効率、便利さなどというのは「よそ見」という無駄を許さない。たしかに必要な論文一本を探すために、書庫に3日間も潜るという時間の浪費は少なくなった。が、その無駄な作業のなかで偶然目に入る「そのときには不要な文献」のかすかな記憶が、後から実は役に立ったという経験が私にはある（あなたの知りたいことは、いま見ている本棚のうしろにある）。そういった「よそ見」は、やはり実際に書庫という空間に身を置かないと出来るものではない。

沖国大の図書館は学外の利用者が多いという報道があった。そのなかには、具体的な文献探しだけではなく、図書館の雰囲気を楽しむにきている人達もかなりいるのではないかと思う。図書館を歩くだけで、整理された知の体系にじかに触れることができるわけであり、日々の仕事を口実にそのような機会を減らしてしまった自分には反省しきりである。やっぱり、図書館に行こう。



地下1階電動書架



「大学図書館について思うこと」

経済学部講師 島 袋 伊津子

大学図書館の機能

マッキントッシュや iPod で有名なアップル社の広告に“Rip, mix, burn”というキャッチフレーズがあります。好きな曲を取り込んで自分好みに編集しオリジナルの音楽 CD アルバムを作ろうという意味です。このような行為はデジタル化、ブロードバンドの普及などでずいぶん簡単になりました。

さて、大学図書館は元祖“Rip, mix, burn”の場であると思います。ただし音楽データではなく、知的情報の。調べたいテーマに関する本を集め、これらの一部分を抜き出し、自分なりの切り口で再構成し、論点を整理する。これで立派な論文やレポートのできあがりです。ただし、この作業をするとき、高額な専門書や分厚い辞書に記載された情報を手に入れたいが、必要なのは一部だけなので購入するのはチョット・・・ということも多いでしょう。そんなとき図書館の存在はありがたいものです。また購入すら難しい絶版本が図書館で見つかったら、そのありがたさは倍増です（逆は逆）。すなわち、大学の図書館は、本という形で蓄積された知識を再構成し新しい考え・アイデアを生み出す行為の基盤を提供しているわけです。大学図書館が小中高校の図書館と大きく異なり、重点を置くべきはこの機能だと思います。

知的情報収集の場としての図書館はもはやいらない？

コンピュータが身近になった現在、情報収集の場が図書館からインターネット上へ変わりつつあります。例えば調査レポートや学术论文、官公庁が発表する統計資料など、様々な知的情報が直接ネット上で入手できます。有識者の意見は書籍化を待たずにブログで公開されます。このような変化は大学図書館にとって脅威になるかもしれません。大学生が論文やレポートを作成するとき、以前ならまずは図書館で蔵書検索しましたが、今は Google 検索です。（ただし、小中高校の図書館の場合、インターネットで代替できる機能は多くないと思います。インターネットの普及によって読書感想文コンクールや絵本の読み聞かせがなくなるわけではありませんから。）

さて、一般にネットによって「中抜き」現象がおきるといわれています。企業が小売業者などの仲介者を通さずに消費者と直接取引する現象です。図書館が本や資料の提供者と読者の間に立つ仲介者となれば、既に「中抜き」現象は始まっています。

す。このまま図書館はいらなくなってしまうのでしょうか？

情報収集の指南役としての図書館

情報収集するとき、インターネットが全てを解決するわけではありません。情報リテラシーが未熟な学生はネット上にあふれる大量の情報を前に困惑することが多いでしょう。またその情報が論文・レポートの作成に役立つものかどうかの判断すらつかないこともあると思います。そんなとき、図書館に行けば指南役がいます。さらに図書館の蔵書から得られる知的情報はネット上で提供されるそれとは異なり、フィルター（出版社、大学の選書委員会など）にかけられた質の高い情報であるはず（例外はあるでしょう）。レポート・論文で、引用元が誰が書いたかもわからないネット上のドキュメントだと信頼性に欠けます。情報化が進めば、情報収集活動の指南役として、図書館が果たす役割はますます重要になるでしょう。大学の図書館はこの機能を強化すべきです。

図書館という空間

キャレルで勉強している学生、雑誌・新聞コーナーでリラックスしている学生、グループ学習室で議論している学生。こういう図書館の風景を眺めていると、これは大事な大学の文化だなあと感じます。図書館は存在自体がデジタル化され、物的な施設としては今後縮小するかもしれません。しかし今のところ、学生がなんらかのよい刺激を受ける空間として大事な役割を果たしていると思うのです。ダラダラしていた学生がキャレルで勉強している学生を見てシャキッとすることもありません。講義の合間に図書館で暇つぶしに読んだ本や雑誌から面白いアイデアが生まれるかもしれません。一人で勉強していたときには気が付かなかったことが友達と議論するうちにクリアになるかもしれません。沖国大の図書館は十分にその空間を提供しています。学生の皆さん、大学の図書館を積極的に活用しましょう！



2階キャレル



米国の図書館びっくり体験記

産業情報学部教授 宮 森 正 樹

私は1977年から1983年頃までアメリカの大学・大学院に通っていた。日本の大学にいた頃は、勉強もしなかったので図書館を利用するということはありません。休講の時の暇つぶしか昼寝の利用のみであった。ところが、米国留学して卒業を目指すと、生半可な勉学ではそれが達成できない事に気づいた。それから、図書館は私の友達となったのである。

まずはハワイ大学に編入し、図書館のあまりの大きさにビックリさせられた。また、一つの大学の中に複数の図書館があるのも驚いた。カリフォルニア大学チコ校では、試験期間中の図書館の開放について驚かされた。そして、北アリゾナ大学では、コンピュータ化されたシステムとAV設備の充実が驚かされた。これらは今から25年前の話であり、今はもっと進んでいると思う。

さて、最初の紹介はハワイ大学である。まず興味深かったのは、日本の図書館では見ることができないような戦前・戦中の本が多く所蔵されていることであった。暇があると、図書館に通い、日本語に飢えていたこともあって、いつもそこで戦前の書籍を読んでいた。沖縄では見ることができない軍国主義の書籍も多く、改めて日本の歴史をハワイの地で考えさせられた。また、米国の図書館のシステムとして、どこの大学の学生も自由に利用できるようになっており、図書館を公的に開かれたものとする意識はかなり前から持っていたように思われる。ハワイは島嶼なのでハワイ大学に無い図書はもうハワイでは見つけることができない。でもアメリカには、インターライブラリー・ローンという制度があり、面倒な手続きを必要とせず誰でも気楽にメインランドの他の大学から本を取り寄せるシステムがある。私もなんとかハワイ大学で見つからない文献を他の大学から取り寄せてもらって利用したことがある。

カリフォルニア大学では、試験期間中は図書館が24時間オープンとなり、学生達はそこで1日中勉強をする。1階の出入口には、学生達がドーナツとコーヒーを販売していて、勉強や調べ物に疲

れた私はよくそこで温かいコーヒーで骨休めをしたものである。また、夜中に図書館から帰宅する女子学生のために、男子学生達がエスコートして自宅や寮まで送っていく仕組みもあった。日本の図書館では考えられないことだが、学生達は図書館の広いロビーみたいな所でふかふかのジュータンの上に座り込んだり、寝っ転がったりして本を読んでいるのも驚いた。しかし、私のイトコ達は日系2世であるが、彼女らが小学生の時に、本を読んだり勉強をしたりするときに、カーペットの上で寝ころび、好きな格好で本に接していたことを考えると、カリフォルニア大学でのあの光景は理解できる。

北アリゾナ大学では、まだ70年代後半というのに図書の貸し出し、また、目録などがコンピュータ化されていた。すべての図書が開架式であり、また、出入りも赤外線「検査」を経るもので、当時の日本の図書館とはITの活用という点で雲泥の差を感じた。また、アメリカの図書館には、司書の資格(普通は修士以上)をもった専門家が必ずいると同時に、本好きの学生アルバイトやボランティアの人々もともに働いている。そして、先進的なコンピュータ化と同時に、本を紹介してほしいという相談にも気軽に乗ってくれる窓口もあり大変便利であった。

地域に開かれ、自由に使えるアメリカの図書館ではあるが、それだけに日本の図書館にはない厳しい一面もある。それは返却が1日たりとも遅れれば自動的に罰金が科されるということである。自由に図書館を使う権利を有する代わりに、他人や図書館に迷惑をかけないという義務も課すのはアメリカの図書館の特徴かも知れない。



2階休憩室



図書館との出会い

総合文化学部准教授 森 庸 夫

自慢できるほど本学図書館を利用しているわけでもないのに、おこがましくも思いますが、学生諸君に何らかの参考になる事もあればと思って、この随想を書くことにする。

はるか昔のことになるが、私が皆さんとおなじように大学生であった頃、私個人にとって図書館は全くと言っていいほど無縁のものでした。入学早々に訪れた大学図書館の第一印象が先ずよくなかった。当時は規模も小さく、いわゆる閉架式で、閲覧者は書庫へ入れない仕組みになっていました。殺風景な事務所みたいな部屋に無愛想な係員がいるだけで、新聞や週刊誌類以外には何も目に付くものはありません。本を借り出すには書名と請求番号を閲覧請求用紙に書き込んで提出し、係員が書庫に入っていて探してくるという方式でした。自分で探す手間は省けますが、役所で住民票を取るときと同じで、胸が躍るような喜びはありませんでした。さらに、講義が図書館を利用しなくてもいい形式のものだったこともあって、その後、四年次に卒論をかくために数回利用しただけでに終わりました。その時点では図書館との真の出会いにはなかったと言えます。

しかし、図書館との出会いがなかったら、私が本学で教えているということもなかったでしょう。大学卒業後一年ほど仕事をして、アメリカへ留学しました。アメリカが見てみたい強い気持ちがあって、確固たる目標もなく、漫然と中西部の州立大学に入学しました。ところが、大学の中央キャンパスに初めて立ったとき、日本の母校の貧弱なキャンパスのフラッシュバックもあり、大きな感銘を受けました。その中央に、古色蒼然と威容を誇る建物があり、その外観に魅了されて、恐る恐る足を踏み入れました。其の時が私の図書館との出会いといえます。その建物がいくつかある図書館の中枢を占める総合図書館でした。

爾後私はこの図書館に足繁く毎日のように通うこととなります。リベラルアーツ系の図書はありとあらゆるものが収蔵され、世界各国の定期刊行専門誌があり、さらに最上階の一部はアジア図書

館として区分され、日本を含む東アジア諸国の図書および文献が数多く収蔵されておりました。もちろん開架式で、膨大な数の図書が収まっている書架の間の迷路のような通路を、漫然とあるいは求める本を探してさまよい歩くのが本当に楽しかった。専門書が中心になりますが、いわゆる一般図書もかなり読んだ記憶があります。おかしな話ですが、日本文学、日本の文化や宗教に関する本も初めてここで興味を持って読むようになりました。このように、図書館との出会いは私にとって最も大切な出会いの一つです。

さて、本学にも立派な図書館ができました。学生諸君のニーズにこたえるだけの蔵書があり、私のような古い人間には上手に活用できないようなハイテク設備も数多く備わっております。大学は出会いの場所です。生涯の友との出会い、尊敬する教師との出会いが先ず望まれます。さらにもう一つ、是非図書館と印象的な出会いをしてください。



1階・2階書架



大学図書館を活用しよう

総合文化学部准教授 山口 真也

ご入学おめでとうございます。これから皆さんは、様々な場面で大学図書館を利用することになると思いますが、大学生活を有意義なものにするためには、早い時期に、図書館の活用方法をマスターしておく必要があります。今日は、図書館を構成する「4つの要素」を説明しながら、本学図書館の利用方法を紹介してみましょ

う。図書館に入って、まず目に付くものは棚にずらりと並んだ「本」です。本学図書館には約30万冊を越える本が所蔵されています。学校の図書館の蔵書がだいたい1万冊ですので、そのスケールは実に30倍です。ただし、大学図書館の本は、町の図書館や学校図書館とは違って、専門書や教養書が中心です。町の図書館(公共図書館)を併用しながら、レポート作成や研究を進めていきましょう。図書館にない本については、リクエスト制度を利用して、本学図書館の蔵書に加えてもらうことも可能です。どんどん活用してみてください。

棚にあるものは本だけではありません。3階には学術雑誌、1階の入り口近くの「ブラウジングコーナー」には娯楽雑誌や新聞が約2,200種類も並べられています。さらに、3階のAVコーナーに上ってみると、5,000点を越えるDVDやCDが並んでいます。大学では、朝から夕方までぎっしり授業が入っているわけではありませんので、授業の合間に、学術雑誌を読んで教養を磨いたり、AVブースでクラシックを聴くなど、贅沢に時間を過ごしてみてもいいでしょうか。図書館では、1ヶ月に1回ほど、レンタルビデオショップには置いていないような映画の上映会も行っていますので、興味がある人は参加してみてください。

さて、再び図書館を見渡してみましょ。館内には本やDVDなどの「資料」の他に、さまざまな「設備」が用意されています。大学図書館は一種の巨大迷路ですので、必要な資料を探すことは大変です。そうした場合は、各階にあるコンピュータを使って館内のどこにどのような資料があるかを調べてください。また、館内のコンピュータは、インターネットに接続されており、新聞記事検索や

各種データベースからの情報収集も可能です。いまや情報は本の中にだけあるわけではありません。新しい情報をどんどん手に入れて、授業や研究に活用してください。なお、コンピュータを使った情報の探し方については、毎年6月頃に文献検索ガイダンスが実施されていますので、積極的に参加しましょう。

さて、ここでもう一度、館内を見渡してみましょ。「資料」と「設備」があれば図書館が成り立つかということ、そういうわけではありません。資料と設備を利用者へと結びつける「図書館員」という存在も忘れてはなりません。図書館員という仕事は「司書」と呼ばれる資格を必要とする専門的な職業です。レポート課題は出たけれど、どの本をどんなふうに調べていいかわからない、といった悩みは誰もが経験することでしょう。そんなとき、利用者と知識・情報を結びつける役割を果たす存在が図書館員なのです。図書館には貸出カウンターの他に、「レファレンスカウンター」が準備されています。わからないことがあれば、どんどん質問してみましょ。司書という職業に興味を持った人は、「図書館概論」「図書館資料論」などの資格科目を受講してみてください。

ここまでで「資料」「設備」「図書館員」の3つの要素が揃いました。では、これで「図書館」が完成するのでしょうか。何か一つ大事なものを忘れていませんか? 4つ目の要素は「利用者」です。「資料」「設備」「図書館員」の3つの要素が揃っても、利用者がいなければ、図書館とは言えません。図書館は、利用者、つまり皆さんのためのものです。本学の図書館を活用することで、皆さんの大学生活が有意義なものになることを願います。



メインカウンター



図書館を最大限に活用しよう

法学部法律学科4年次
下地優貴

みなさんは図書館をどれくらい利用したことがありますか。まず、私が、初めに大学に入学して図書館の広さと設備に驚いたことを今でも覚えています。高等学校までは、本を借りに行くか、調べ物をするということでしか図書館という場所を利用していなかったのですが、それに加えて沖国の図書館には新聞を読むスペース・パソコンの利用・DVD鑑賞、グループ学習室や個室での学習など、さまざまな目的で図書館を利用することができるのです。

また、図書館には専門書の書籍の数の多さだけでなく、それ以外の書籍も数多くあり、ゼミの調べ物や試験前にはよく図書館を利用しています。調べ方がわからない場合でも、司書の方がきちんと教えてくれるので、安心して利用してください。

さらに、試験前になると、座る席がないくらいの学生がおり、緊張感をもって勉強することができ、とてもいい刺激になります。沖国の図書館は、学外からも利用する人がいるくらい設備が充実しており、この図書館をいつでも自由に使える沖国生は恵まれていると思います。なので、ぜひ沖国生のみなさんには図書館に足を運び、最大限に活用し、有意義な学生生活を送って欲しいと思います。



図書館を利用して

産業情報学部企業システム学科2年次
満名千夏

あなたにとって「図書館」とはどういう場所ですか？私にとって図書館とは本を読んだり、テスト勉強に使用するような場所でした。たぶん皆さんもそうだと思います。

去年の4月、沖国大に入学し図書館を見たときに、まず建物の大きさに本当に驚きました。同時に私が考えていた図書館とは違ったものだと感じました。沖国大の図書館は中学校や高校の図書館とは違って、本の数や種類の多さに驚き、今まで見たことのない専門書などがほとんどで、私にとっては縁の遠い本ばかりでした。しかし、このような本はすべて使用するために図書館に置いてあり、私もこの一年間で数多くの本に触れることで、さまざまな知識を得ることができました。今ではレポートや課題にいきづまった時は、自然に図書館を利用するようになりました。また、沖国大の図書館には気分転換のできる雑誌コーナーやビデオ鑑賞のできる場所もあります。私は図書館を利用してとても充実した学生生活を送っています。皆さんも、きっと図書館を利用することで、きっと充実した学生生活を送ることができると思います。



図書館と私

経済学部地域環境政策学科3年次
翁長修一

私が沖国大の図書館を始めてみたときの感想は「大きい...」でした。当時高校生だった私は、入り口の前で4階まである図書館を見上げ、中学や高校の図書館とは規模が違うなと思ったものです。

沖国に通い図書館を利用するようになって思ったのが、中身の違いでした。私は高校でも比較的図書館を利用していましたが、読むのは小説ばかりでした。しかし、大学の図書館では小説といったものは少数派で、むしろ高校時代には誰にも読まれなかったような専門的な本がびっしりと並んでいます。しかし、ちゃんと入門書のような本も置いているんですね。入門書から読み進めれば、専門書も意外と読めるものです。

図書館は静かで勉強しやすいし、わからないところもすぐ本で調べられます。さらに、パソコンを借りてインターネットを使うこともでき、DVDを借りて映画鑑賞なんてこともできます。授業のない空き時間はたいてい図書館で何かしています。今では、図書館は私のお気に入りの場所です。



図書館の魅力

総合文化学部日本文化学科3年次
山城歩

図書館は皆さんにとってどのような存在ですか。個人によって様々な関わり方があるでしょう。

私が沖国大に通い始めて早三年。入学当初、大きな図書館に戸惑い、利用するのもレポートやテスト前などの期間に限られていました。しかし、ある程度大学生活にも慣れ、ゆとりを持てるようになってからは、図書館との関わり方も変わりはじめました。レポート作成やテスト勉強にはもちろん、最高の環境が整えられています。それに加え、専門書以外にも様々なジャンルの本が備えられ、三階ではパソコンの利用やビデオ鑑賞などのできる環境もあり、インターネットや趣味などにも幅広く利用することが可能です。そんな機能性を備えた図書館は、講義までの空き時間を有意義に過ごす場所としても活用できます。

図書館を自分なりの方法で上手に使いこなすことができたなら、あなたの大学生活が今よりも充実したよりよいものになるのではないのでしょうか。この機会にぜひ図書館に足を運んでみてください。きっと新たな図書館の魅力を感じられるはずです。



図書館のマナーを守ってください

地域産業研究科 地域産業専攻2年次 李 鵬 飛

入学オリエンテーションの時、先生のある言葉が私の心に深い印象を与えました。それは、「大学と中学校や高校等との異なることは、大学では学生が先生から知識自身を学ぶ場所ではなく、勉強の方法を学ぶ場所である」という言葉です。大学では、中学校や高校等と異なり、知識を教えてもらえるのではなく、自分に合った学習方法を養成し、自分の力で知識を身に付けることが最も大切です。つまり、大学で最も重要なのは自ら勉強をする姿勢です。この姿勢を養う上で、大学における図書館の質は重要なものであるといえます。図書館の質(設備、資料、居心地等)が、学生の勉学意欲と成果に大きく影響するということです。

私は沖国大に入学した時に、大学図書館に魅了されました。こちらの先進的な設備、豊富な館蔵資料、素晴らしい居心地に感動し、入学してからの約一年間、毎日図書館に通い研究に専念しました。上質な図書館のお陰あって、この一年の研究生活がとても有意義なものになりました。

しかし最近、図書館を利用する際の利用者マナーの悪化を感じています。大声で話したり、笑ったりしている人達が急増し、話し声や携帯電話のベル、靴の音等のマナーの悪化が目立ってきており、このまま続けば、私は沖国大の図書館で、じっくりと思考することができなくなってしまうだろうと危機感を感じています。

何故このような状態になってしまうのだろうかと考えたところ、それは図書館に対する人々の意識が低下してきているからだろうと思います。一部の人々の意識が低くなり、図書館を待ち合わせ場所、時に談話室と勘違いをして利用しているからであろうと思います。図書館は、参考図書を利用しながら勉強をする場所であって、勉強をしない者は図書館の利用を控えた方がいいと思います。

大学図書館を利用する人達は、教育レベルが高いはずであり、最低限度の常識をわきまえているはずです。だからこそ、図書館のマナーを守れないことは非常識行動であるとも言えます。もちろん、非常識行動は図書館に限ったことではなく、

授業中の飲食や携帯電話での会話などもその例です。このような非常識な行為は、他人に迷惑を与えるだけではなく自分自身、あるいは自分に関わるものに対しても悪影響を与えています。その意味で言えば、図書館のマナーを守ることは、自分自身の練磨と行うことができるでしょう。



2階研究個室





『縁』を記録するもの

地域文化研究科 人間福祉専攻2年次 滝 友 秀

私が千葉から沖縄に来て1年が過ぎようとしている。本校への進学を決める際、進学することを望みつつも沖縄という遠い場所での学生生活に不安を感じていた。しかし「これも何かの縁だから行ってきなさい、きっとあなたは沖縄と縁があるのだらう」と両親が私の背中を押してくれた。両親から言われた『縁』という言葉によって不安が薄れ、心の中でどことなく繋がっていなかった私自身と沖縄との関係が繋がったように感じたのを今でも覚えている。縁という言葉は「原因を助成して結果を生じさせる条件や事象、そのようになるめぐりあわせ、関係を作るきっかけ、人と人または物事との関わりあい」などの意味がある。また、この言葉には「目に見える現実世界を超えた、目に見えない大きな力や流れ」というものを聞いた人に感じさせる作用があるように思われる。

我々は様々な人や物事と縁があると感じることもある。しかしながら、全ての人や物事と縁があると感じている訳ではない。我々は「大きな力や流れ」ではなく、人や物事に対して自身の興味・関心をもとに取捨選択し、主観的に意味づけることで縁があると感じるのである。しかし通常はどのように考えることなく「大きな力や流れ」によるものだと感じる。これは自身の興味・関心が潜在的であり、気づいていないことを示している。つまり縁があると感じた対象は、潜在的に興味・関心がある対象であると言える。この様に考えると、縁があると感じた対象がどのようなものであるかを知ることは、自分自身の潜在的に興味・関心を抱いている対象を知るための助けとなり得る。

この1年間、幸福なことに私は新しい環境で様々な縁を結んでくれた様に思う。指導・助言を与えてくださる先生方・諸先輩の方々、苦楽を共に過ごす同輩達、そして活動するなかで出会った様々な人達。また、人との縁だけでなく図書との縁もあったように思う。私はよく図書館を利用するのだが、専門分野について調べる際に見知らぬ図書のなかに思わぬ縁を感じ、潜在的であった興味・関心に気づかされることがある。そしてその興味・

関心を調べる際にまた縁を感じる図書と出会う。人や図書だけでなく縁があると感じた対象を概観すると、私という人間像が形作られ、そのどれもが今の私を形作るために必要であるように思う。そのなかで図書との縁を概観すると、私の興味・関心がどのような方向性を持って今に至ったのかが見える形で示されており、図書とは縁を記録するものであり、私の一側面をも記録するものであると思わされる。

最後に、大学は様々な人と縁を結び共に活動し、専門的な学問に触れ、そして自己を確立しつつ社会へ出るための準備を行う期間であると思う。そのなかで縁があると感じたものを知ることで、自身の潜在的な興味・関心を知り、それを深め広げていくことは自己の確立と社会への準備にとって有意義であるように思う。その際に図書は縁を記録するものとして有効に活用し得ると考えられる。本校の図書館には数え切れないほどの蔵書が収められており、その中から縁があると感じる図書を一冊でも多く見つけることは、自身の興味・関心を知る手掛かりを増やすことに繋がる。そのため私は皆さんに自身を知るために本校の図書館を利用する事をお勧めしたい。そして新入生や在校生の皆さんが、学生生活を通して図書だけでなく様々な縁と結びつき、皆さん自身のさらなる興味・関心の幅を広げていける事を切に願う。



郷土資料室

図書紹介

『山月記』

経済学部准教授 松崎大介

今回、図書紹介を依頼されたのだが、昨年の夏に左眼を負傷してしまい、最近の本を読んでいない。そこで、少し昔の文献になり申し訳ないが、図書館のHPからもリンクされている青空文庫にも掲載されている中島敦の「山月記」を紹介しようと思う。ここで示した青空文庫とはインターネット上において無料で作品を閲覧できるサイトである。この中にある文献は、著作権の問題がクリアされた明治から昭和初期までの作品が大半であるが、著名な作品が手軽に読めるので、時間がある大学時代に色々と目を通しておくことをお勧めしたい。

さて、この短編は高校の教科書にも掲載されているので、既読の方も多いかと思うが、簡単にあらすじを書いておこう。この寓話の主人公である李徴は、詩人となって高名を得ようとした才気豊かな人物だった。しかし、彼の詩はなかなか評価されず（後で記述があるが、それらの詩は第一流となるにはわずかに及ばないものであると評されている）、失意のうちにいるとき、どこからか自分の名を呼ぶ声が聞こえ、それについて行くと、何時しか人食い虎になってしまった。虎となった後、様々なものを襲っては食らい、偶然遭遇したかつての友人である袁傜にも襲いかかろうとする。しかし、その途中で李徴としての意識を一時的に取り戻し、自らが虎になった経緯と何故そうなったのかの自分なりの解釈を袁傜に語る、ということが本編のたまかな内容である。そして、作者が李徴を通して語らせた虎となった理由（詩人として大成できなかった理由）こそが、この寓話の中心となる点であり、我々が（特に自分が人より比較的秀でていると考えている分野において）しばしば陥ってしまう状況について、良く考察されているように私には思えるのだ。例えば、李徴は以下のような独白をしている。「己の珠に非ざることを惧れるが故に、敢て刻苦して磨こうともせず、又、己の珠なるべきを半ば信ずるが故に、碌々として瓦に伍することも出来なかった」。これは我々研究者が常に戒めなければならない点であるし、

そして、学生の皆さんにも心に留めてもらいたい点でもある。例えば、私の経験上、大学での成績がとても良い学生が、なかなか就職が決まらない状況がしばしばある。そして、その中の何人かは、社会的評価が高い一部の企業を重視し、それ以外に目が向いていなかったことが、その原因であるように見えるのだ。つまり、優秀な学生であるだけに「瓦に伍することが出来なかった」のではないかと思うことがある。以上は私の見当違いなのかもしれないが、我々は容易にこのような状況に陥りやすく、そして自らの優れた部分により逆に困窮してしまう可能性があるということは、心に留めておいてもらいたい。自らの良い点は、それに向き合い適切に育てなければ、害になることすらあるのだ。

最後に、この短編を読んで、今もまだ気にかかっている点がある。物語の後半に、袁傜が李徴の詩を聞き「第一流の作品となるのには、何処か（非常に微妙な点に於て）欠けるところがある」と評している。では、この物語で言及されるような、第一流として欠くことが出来ない点とは何だったのだろうか？当時、関連する文献を読み解いてみたのだが、納得のいく回答は見当たらなかったし、私自身が答を見出すことも出来なかった。もし、皆さんがこの短編を読み、自らの解に至ったのなら、是非教えて戴ければ幸いである。



学科長が新入生に薦める5冊(種類)の本

法学部法律学科長 田中 稔

書名	著者名	発行所等
プロフェッショナル仕事の流儀2	茂木健一郎等編	日本放送出版協会
プロフェッショナル仕事の流儀7	茂木健一郎等編	日本放送出版協会
新版・パンツをはいたサル	栗本慎一郎	現代書館
民法を成立せしめているテーズ群	池正也	三和書房
図解でわかる民法	山本浩司	日本実業出版社

法学部地域行政学科長 照屋寛之

書名	著者名	発行所等
知的生活の方法	渡辺昇一	講談社現代新書
頭をよくする私の方法	竹内 均	三笠書房(知的生き方文庫)
愛に生きる	鈴木鎮一	講談社現代新書
豊かさとは何か	暉峻淑子	講談社現代新書
政治の数字	伊藤惇夫	新潮新書

経済学部経済学科長 村上了太

書名	著者名	発行所等
人間にとって経済とは何か	飯田経夫	PHP (PHP 新書)
物語 現代経済学	根井雅弘	中央公論社(中公新書)
経済学のキーワード	梶井厚志	中央公論社(中公新書)
労働ダンピング	中野麻美	岩波書店(岩波新書)
資本主義の未来を問う	日本経済新聞社編	日本経済新聞社

経済学部地域環境政策学科長 新垣 武

書名	著者名	発行所等
環境科学 - 人間と地球の調和をめざして -	日本化学会編	東京科学同人
自然再生事業 - 生物多様性の回復をめざして -	鷲谷いずみ、草刈秀紀	築地書館
化学の目でみる地球の環境 - 空・水・土 -	北野康	裳華房
137億年の「もの」がたり - ビック・バンから生命誕生へ -	大野惇吉	三共出版
宇宙創世はじめの三分間	S.ワインバーグ著、小野伸彌訳	ダイヤモンド社

産業情報学部企業システム学科長 天野敦史

書名	著者名	発行所等
アジアのダイナミズムと沖縄	沖縄国際大学公開講座委員会	ポーターインク
経営管理総論	藻利重隆	千倉書房
ノームクラツーラ	ミハイル・S・ヴォスレンス	中央公論社
哲学ノート 上下	ヴェイ・レーニン	大月書店(国民文庫)
資本論全3巻	カール・マルクス	岩波書店

産業情報学部産業情報学科長 兪炳強

書名	著者名	発行所等
情報って何だろう	春木良且	岩波書店
情報検索のスキル - 未知の問題をどう解くか 知的複眼思考法	三輪真木子	中公新書
- 誰でも持っている創造力のスイッチ	刈谷剛彦	講談社
説明上手になれる「らくがき」の技術	ミリー・ソネマン 諏訪原久美子訳	PHP研究所
ひとつのブログで社会が変わる	和田亜希子	技術評論社

総合文化学部日本文化学科長 大城朋子

書名	著者名	発行所等
女のことばの文化史	遠藤織枝	学陽書房
日本人はなぜ日本を愛せないのか	鈴木孝夫	新潮選書
日本語の特質	金田一春彦	日本放送出版協会
外国人力士はなぜ日本語がうまいのか	宮崎里司	日本語学研究所
問題な日本語・続弾! 問題な日本語	北原保雄編著	大修館書店

総合文化学部英米言語文化学科長 追立祐嗣

書名	著者名	発行所等
沖縄戦後ゼロ年	目取真俊	NHK出版
文学部唯野教授	筒井康隆	岩波書店
動物農場	ジョージ・オーウェル	角川書店
ハックル・ベリーフィンの冒険	マーク・トゥエイン	岩波書店
クリック? クラック!	エヴィー・ジ・ダティカ	五月書房

総合文化学部社会文化学科長 藤波 潔

書名	著者名	発行所等
沖縄現代史<新版>	新崎盛暉	岩波新書(新赤)
台湾紀行 <街道をゆく40>	司馬遼太郎	朝日文芸文庫
「日本」と何か <日本の歴史00巻>	網野善彦	講談社
文明論の概略	福沢諭吉	岩波文庫(青)
歴史を学ぶということ	入江 昭	講談社現代新書

総合文化学部人間福祉学科長 桃原一彦

書名	著者名	発行所等
ひきこもりカレンダー	勝山 実	文芸春秋
「家をつくる」ということ	藤原 智美	講談社
放送禁止歌	森 達也	光文社
無意識の植民地主義	野村 浩也	御茶の水書房
深夜特急(1巻~6巻)	沢木耕太郎	新潮社

図書館利用オリエンテーション

平成18年度新入生

図書館利用オリエンテーション実施状況

図書館では、新入生を対象に図書館利用オリエンテーションを行っている。平成18年度は4月24日から5月31日の間に70クラスに分けて実施した。対象学生は1,432名で、参加者は1,347名、率にして94%だった。

オリエンテーションは、図書館資料や施設の把握、それに、資料の検索方法や図書館の効率的な利用方法等を理解し、早い時期に図書館に慣れ十分に活用できるようにとの配慮から実施している。



その内容としては、職員が図書館利用の全般的な心得等を説明し、全館(地上4階、地下2階)を案内した。各コーナーでは資料や設備・機器などの利用方法についてくわしく紹介し、最後にオンライン検索(OPAC)と連想検索 OPAC で図書を検索し資料にたどりつく実習を行った。

平成19年度新入生

図書館利用オリエンテーションの実施について

平成19年度新入生図書館利用オリエンテーションは4月の中旬から実施の予定。基礎演習等の時間を利用して実施することになっているので必ず参加すること。詳細は、担当教員を通して後日連絡します。

図書館は皆さんを待っている

図書館には蔵書約35万冊、視聴覚資料8,554点、雑誌2,364種類、新聞51紙、その他パソコン機器56台(内研究個室21台)、ビデオ25席等を設置している。「知と情報の宝庫」といわれる図書館を効率よく活用してほしい。これらの資料は皆さんの利用を待っている。

(ステップアップガイダンス)

図書館ワークショップを開催

図書館では、学部学生3年次以上を対象にした図書館ワークショップを開催した。卒業論文、修士論文、レポート作成や研究、学習に必要な資料の探し方、そして、図書館で提供する各種サービスや効率的で便利な情報検索方法を学ぶ機会として実施している。ワークショップの内容は、図書館活用法を Part 1、論文検索を part 2 として開催した。

Part 1 の図書館活用法では、資料を検索する際に役立つ便利な道具、図書館間相互協力、図書館システムにおける情報検索のコツや、目的に応じた情報の探し方等を紹介した。Part 2 の論文検索では、CiNii(サイニィ)などのデータベースを活用し、論文資料の収集方法について説明を行い、最後に学生自身で課題を設定して、各自が実際必要とする論文の検索を行う実習をした。

実施期間は、6月19日(月)から7月7日(金)までの3週間で全12回開催し、Part1に114名、Part 2 に130名の計244名が受講した。

情報化の進展によりさまざまな資料が電子的に出版され、ネットワーク上に存在している。研究や学習を効率よく進めるためには、従来の図書資料やビデオ、CD等からだけでなく、電子的なメディアからの情報収集が必要となっている。従来のメディアと新しいメディアを効率よく利用できるように是非図書館ワークショップを活用して情報収集の力をつけて下さい。



平成18年度 書評・映画評賞 優秀賞2編、佳作6編決まる

本学学生の読書・映画鑑賞活動の向上を図ることを目的として実施した「平成18年度沖縄国際大学図書館書評・映画評賞」は、8編の応募があった。

12月15日(金)の第7回図書委員会で審査した結果、最優秀賞は該当作なし。優秀賞2編、佳作に6編選考された。この賞は、平成元年度に論文賞として設けられ、平成9年度から平成17年度までは論文・エッセイ賞として実施し、平成18年度は書評・映画評賞として内容を新たにして募集したものである。受賞者は次の通り。

優 秀 賞

法学部法律学科4年次 伊禮司

「世界が二つに割れる秋 - 江藤淳著『妻と私』に見る「時空の分離」」

総合文化学部英米言語文化学科3年次 池宮沙織

「『ジュリアス・シーザー』におけるブルータスの人物像について - ブルータスの考える正義とは - 」



優秀賞受賞者の伊禮司さんは「沖国大で学んだことの証として取組んだ動機と大学院(琉球大)で研鑽する決意」を語り、また、池宮沙織さんは「ブルータスの人物像が好きで取組んだことと、これからの大学生活を大いにエンジョイしたい」と喜びを語った。



佳 作

総合文化学部人間福祉学科3年次 大城奈保
「『バツと鈴虫』(川端康成著) そう差別するものじゃないだろうが・・・」

法学部法律学科1年次 嵯峨根葵
「私が読んだ夏の一冊『毒麦の季』壁の声」

経済学部地域環境政策学科2年次 仲村緑
『美しき、嫌われ松子の生涯』

総合文化学部人間福祉学科1年次 儀間弘子
「神谷美恵子『生きがいについて』より ~ 生きがいを見つけるには ~ 」

総合文化学部日本文化学科3年次 福里愛子
「100万回分のしあわせ」

法学部法律学科1年次 新垣美乃
「障害から学んだこと・・・」

図書館長の講評の概要

昨年までは「論文・エッセイコンテスト」として行ってきた図書館主催のこの賞であるが、今年は、より多くの学生が応募しやすいようにと「書評・映画評賞」として募集した。しかし、昨年までの論文の感覚があり、学生に少し戸惑いがあったように思われると前置きして、作品の講評をされた。「世界が二つに割れる秋 - 江藤淳著『妻と私』に見る「時空の分離」(伊禮司)は、先ず、タイトルにセンスがありインパクトを感じた。江藤淳の時空の分離を論じており発想と着眼点はすばらしい。論文を意識した感があり、もっと平易な文章で書き込んだらすばらしい作品になると期待した。「『ジュリアス・シーザー』におけるブルータスの人物像について」(池宮沙織)は、作品のストーリーを丁寧に追っている点は評価できるが、ブルータスの人物評になりすぎている。『ジュリアスシーザー』の作品全体への論評もほしかった。また全員に、次年度も応募していただきたいと期待を寄せた。

表彰式開催

書評・映画評賞の表彰式が12月22日(金)、図書館の会議室で開催された。式は、金城智子課長から経過説明が行われた後、武田一博図書館長から受賞者に賞状と副賞が手渡された。引き続き図書館長と図書委員の先生方から講評が行われた。受賞者は図書委員の先生方から祝福をうけ「今回の受賞を励みにしたいと思います」と喜びを語った。





優秀賞

世界が二つに割れる秋^{とき}

江藤淳著『妻と私』に見る「時空の分離」

法学部法律学科4年次 伊 禮 司

(年次は受賞時)

1. 序論

1999年7月21日、昭和から平成という激動^{らん}と爛^{とどろ}熟^{じゆく}の時代において、日本にその馥郁^{ふいく}たる文名を轟^{とどろ}かせ続けた稀代の文芸評論家、江藤淳氏が自殺^{じらい}した。爾来、雲霞^{うんか}の如き研究者やジャーナリストが、その死に意味と価値を賦活^{ふかつ}しようと試みたが、生前の氏の幾重にも亘る「喪失と断念」、また最愛の妻^{せいきよ}の逝去という自殺の原因が、人々をして、無意味な誤解と不可解な落涙^{らくるい}へと導き、正確で普遍的な評価は、未だ収斂^{しゆくうれん}していないようである。

私が、本稿で批評^{そじょう}の俎上に載せるのは、江藤氏の『妻と私』という作品である。この作品は、著者畢生の傑作であると同時に、氏の自殺への前奏曲ともなっている。妻である慶子夫人が、末期癌^{がん}と診断された後に展開される夫婦生活と、妻他界後、江藤氏自身が深々と自覚した「孤独と身体の変調」を透徹した筆致で描き出した作品である。斯^し様な内容を備えたこの作品は、ややもすると、「比翼連理たる夫婦の聖悲劇」という俗耳に入りやすい物語に墮^おするが、私はこの作品を通して、江藤夫妻の愛情^{あいけつ}と永訣に言及し、『妻と私』という作品の構造を解体しながらも、夫妻の空間に存在する「時間の分離」という光景を本稿では可能な限り仔細^{しさい}に分析したい。私はこの分析が、江藤氏の自殺に対する有益な一考察になり得ると確信しており、またその考察が、私達が「生と死」の臨在^{りんざい}に感応^{かんのう}する際に、忌避^{きひ}できない概念として「時間」というものを前景化させるパースペクティブであると認識している。「時間」とは、人間にとって如何なるものなのか。それは、人間の世界認識^{いそ}と真理の探究^{ないほう}に対して、如何なる位相を内包しているのだろうか。本稿では、それらの問題を究明していきたいと考えている。

2. 『妻と私』における二人の交感

私は、この作品を読了した直後から、ある一つの感想を保持している。それは、妻である慶子夫人の闘病生活の稀薄さである。この感想は、二人が結婚当初から何度も話し合われ、確認してきた

という「不必要な苦痛を味わわずに、静かに眠るがごとく逝きたい。慶子になるか私になるか、先に病人を看取る役割を果たすことになった者が、お医者様をお願いして、そうしていただくという約束」⁽¹⁾に起因しているのではないか。実際に慶子夫人は、肺から脳髄に転移した癌細胞により、全身に放散した病苦を静かに訴える場面が数度あるだけで、凄絶な咆哮や発狂などの醜態という「闘病」の様相が皆無なのである。

それは、江藤氏が妻に真実を「告知」しないことを決断し、緩和ケア的な医療処置としてステロイド剤やモルヒネの投与の事実も関与していると思うが、慶子夫人の作中全体を覆う奇妙な静寂は、江藤氏が妻の余命を、夫婦の精神的交感に傾注した結果である。モルヒネ投与が開始される直前、妻がこれまでの小康状態を破り、苦痛を訴えた際には、「今までに辛いことは何度もあったけれども、二人で一緒に力を合わせて乗り切ってきたじゃないか。駄目なんていわないで、今度も二人で乗り切ろう、ぼくがチャンと附いているんだから」⁽²⁾と耳許で懸命に励まし、病室を訪れた際は必ず「慶子、おはよう。今日は 月 日の 曜日だよ」と声を掛け、慶子夫人はそれらに対して、微かな笑顔と沈黙で応えるのである。その荘重な静謐^{せいひつ}が顕著な部分の文章をここに引用してみる。

「慶子は、無言で語っていた。あらゆることにかかわらず、自分が幸せだったということ。告知せず^{みみもと}にいたことを含めて、私のすべてを赦すということ。四十一年半に及ぼうとしている二人の結婚生活は、決して無意味ではなかった、いや、素晴らしいものだった、ということ。私は、それに対して、やはり無言で繰り返していた。有難う、わかってくれて本当に有難う、ということ。君の生命が絶えても、自分に意識がある限り、君は私の記憶のなかで生きつづけていくのだ、ということ」⁽³⁾。

これは、慶子夫人の臨終がいよいよ間近という時に、二人が交わした「無言の会話」である。この会話を最後に妻は、深い昏睡^{こんすい}に襲われ、静かに

息を引き取った。1998年11月7日、早朝の永眠であった。ここで特筆すべきは、二人の交感が一方の妻の死後も継続しているという情景である。江藤氏は仮通夜の際、自宅の斎庭に「妻の霊」の顕現を感じ取り、また、一連の看病で疲労と病変が自身を襲う段になり、入院生活を開始して初めて、妻の形見である翡翠の指環に涙するのである。「何だ、慶子、君はやっぱりここにいたじゃないか、ずっとぼくと一緒にいてくれたじゃないか、と言葉にならない言葉で指環に語りかけると、涙が溢れ出て来た。私はほんの数分の間、その指環を自分の結婚指輪の上に嵌めてみた」⁽⁴⁾。江藤氏の翌年の自殺とは、最早避けられぬ宿命だったのかもしれない。

3. 『妻と私』の構造分析

この作品は、江藤淳氏の「一人称」で「独白・回想調」の文体が採用されている。よって、作品の全体者として江藤氏が存在し、そのことが作品中に「独特の時空間」を創造することに成功している。それは、夫妻二人だけの「生と死の時間」とそれ以外の他者の「日常性と実務の時間」という二つの時間が相互に融合することなく、併存する世界である。このことは夫妻以外の他者の人称に端的に表現されている。作中登場する江藤夫妻以外の近親者や友人の人称が、アルファベットで表示されているのである。例えば、慶子夫人の旧友であるY医院長やM夫人、江藤氏の知己の庭師の親方Sさんなどがそれである。この人称は、もちろんプライバシー保護への配慮もあろうが、この作品中で決定的なのは、上記の二つの時間の存在者を峻別する機能を果たしているということである。このことは詳細に後述する。

そして、江藤氏は作中にもう一つ、無視できない特徴を記述している。それは、「妻の清廉の死守」と「江藤氏自身の汚濁の露出」という両事象の鮮明なコントラストである。末期癌患者の妻やその入院生活を克明に表現しようとする、どうしても嘔吐や排泄などの生理行為の描写は必然となる。しかし、慶子夫人のそれらは、江藤氏の一人称という文体の性質と妻への誠実な配慮によって、悉く作中からは除去されている。これに対して、妻の死後に表出した自身の尿毒症の病状は、ある種、露悪的なまでに活写されている。「ズボンを脱がされ、あらためて患部をつくづく見ると、排泄器官全体が異様にグロテスクに腫れ上がり、

大腿部の皮膚が真赤に熱をもっている」⁽⁵⁾や「差当たり尿道から管で導尿することにして、尿袋に排尿し、閉尿状態に対応することにする。儀式的のあいだは尿袋をはずし、管をクランプして、必要とあれば管の口から排尿する」⁽⁶⁾という文章からもその意図が顕現しているのである。

4. 終論 「生と死の時間」と「日常性と実務の時間」

江藤淳氏の弟子にあたる文芸評論家、福田和也氏は江藤氏の生前の「喪失と断念」において、興味深い考察をしている。「氏は、母君を亡くした。それは氏から無条件に融和し親しみうるような世界との調和、親和を奪った。さらに氏は、父君、あるいはさらに父祖に由来するような、国家的な秩序とその保護を失った。(中略)そしてさらに氏は『故郷』を、『大切なもののイメージ』を失った。それは仮初に獲得した、あるいは回復したと信じてもすべてが無意味である、自分はあらゆる獲得にもかかわらず、失い続けているのだ、という認識として結実した」⁽⁷⁾。その結果、江藤氏の主著である『閉された言語空間』『成熟と喪失』『自由と禁忌』は生み出され、氏の思想と信念の豊穡を約束したのである。

だが、ここで第四の喪失である「最愛の妻の死」が加わり、その入院生活と看病の過程において、江藤氏に「生と死の時間」という覚醒をもたらす。それは「果して流れているのかどうかもよくわからない。それはあるいは、なみなみと湛えられて停滞しているのかも知れない。だが、家内と一緒にこの流れているのか停っているのか定かではない時間のなかにいることが、何と甘美な経験であることか」⁽⁸⁾という感覚で、夫妻以外の他者である世間の「日常性と実務の時間」を隔絶し、夫妻の時空の密閉性と完結性を支えている。この二つの時間了解を「尺度としての客観的時間を時間感覚とは別のものとして了解していること、前者と後者とのずれを了解していることなのである」⁽⁹⁾と定義するなら、計測可能な客観的時間としての「他者と世間」を夫妻の時空から放逐し、妻と江藤氏だけが共有可能な時間感覚としての「生と死の時間」が生成された根拠は如何なるものなのか。そこに私は、人間の「時間把握」の誤解と「生と死」の陥穽と達成を見るのである。人間は常に時間を「空間的表象(一本の線)」として理解することに無批判である。しかし、この理

解では、「過去」というものが何処かに貯蔵され、「未来」というものがその現出を待機している構造が自明となっている。だから、時間というものは「流れる」のであり、日常的な実務に追われれば、感覚として「加速」を感じるのである。しかし、『妻と私』の江藤氏は、慶子夫人の衰弱と逝去に際会して、世界にオルタナティブとしての時空間である「生と死の時間」を自覚し、それはまた「生への断念と死への諦念」により、その時空に象徴的な「新たな同語反復的世界」を現出せしめる。そこには時間の「流れ」は存在せず、「存在の『無』への停滞」のみをもたらすのである。「生と死の時間」の中には、逆説的に「時間」という物理的運動が無いために、「生」も「死」も存在せず、「存在の永遠」があるのみである。だから、江藤氏は生前、蛇蝎のごとく嫌悪していた「自裁」という最後を選択し、妻の慶子夫人と自分自身を分断する全てを世界から排撃したのだった。

人を愛するとは、何と苛烈で哀切な旋律を奏でることであろうか。

注

- (1) 江藤淳『妻と私』文芸春秋、1999年、32ページ
- (2) 同書、73ページ
- (3) 同書、81～82ページ
- (4) 同書、112ページ
- (5) 同書、101ページ
- (6) 同書、95ページ
- (7) 福田和也『江藤淳という人』新潮社、2000年、45ページ
- (8) 江藤淳『妻と私』文芸春秋、1999年、68～69ページ
- (9) 中島義道『生きにくい・・・私は哲学病。』角川文庫、2004年、41ページ



優秀賞

『ジュリアス・シーザー』における ブルータスの人物像について

～ブルータスの考える正義とは～

総合文化学部 英米言語文化学科3年次 池宮沙織

(年次は受賞時)

1. はじめに

戯曲『ジュリアス・シーザー』では、主人公をシーザーと置きながらも、彼は劇半ばで早々と暗殺される。その後の物語を動かしていく最重要人物は、マーカス・ブルータスである。彼の一言で物語は動き出し、彼の死とともに物語は終わりを告げる。私は、そのブルータスという人物、その人間性に強く惹かれた。周囲に絶大な影響を及ぼしたブルータスとは、どのような人物だったのか。また、シーザー暗殺に加わった彼にとっての正義とは何であったのだろうか。

2. シーザーに対する考え

ブルータスはシーザー本人には恨みはないが、

ローマの共和制を揺るがす者としてシーザーの存在を案じている。シーザーに対するブルータスの考えは、次のような場面によく現れている。

We all stand up against the spirit of
Caesar,
And in the spirit of men there is no blood.
O, that we then could come by Caesar's
spirit,
And not dismember Caesar! But, alas,
Caesar must bleed for it. (2.1.167-171)¹

ブルータスは、シーザー暗殺がローマの未来のために必然となってしまったこと、また本当はシー

¹ 『ジュリアス・シーザー』からの引用はすべて Stephen Greenblatt ed, *The Norton Shakespeare* (Norton, 1997) からのものである。

ザーの考えだけを改めさせたかったということ、暗殺メンバーに語りかける。このセリフから分かることは、ブルータスは本来シーザー暗殺を望んでいたわけでは決してなく、ローマ市民一人ひとりの権利を守るため、暗殺計画に加わったということである。ブルータスにとってのシーザーという存在は、ローマの共和制を守り抜く上での障害であったといえる。ローマ人としての使命感と誇りを強く持つブルータスは、シーザーの存在を見過ごせなかったのだろう。彼はシーザーを愛しながら、その野心にのみ剣を向けたのである。

3. 妻ポーシャとのやりとりから見るブルータス像

この劇の時代設定は古代ローマである。この時代の女性の地位は総じて低く、男性優位社会であった。しかしそのような時代において、ブルータスとその妻ポーシャの関係は極めて良好だったといえる。お互いを大切に思い、強い信頼関係が築かれていたと思われる。それが読み取れるのは、以下のようなやりとりにおいてである。

BRUTUS You are my true and honourable wife,
As dear to me as are the ruddy drops
That visit my sad heart.

PORTIA If this were true, then should I know this secret.

...

BRUTUS O ye gods,
Render me worthy of this noble wife! (2.1.287-303)

これは、ブルータスが暗殺計画に加わることをキャシウスらに了承したあと、その不穏な空気を感じ取ったポーシャが、ブルータスと言葉を交わす場面である。一見口論のようにも見られるが、お互いを気遣いあつての上での会話だと読み取ることができる。ブルータスはこの危険な計画にポーシャを巻き込みたくないと思い、計画のことを秘密にしようとする。ポーシャは、少しでも夫の力になりたい、負担を取り除いてあげたいという一心でブルータスに秘密を打ち明けるよう頼むのである。ブルータスはその狭間で葛藤している。ブルータスの妻ポーシャに対する接し方から、妻を心から

愛し、妻の尊厳を大切にする彼の誠実さ、人柄のよさが伝わってくる。

ポーシャを愛するブルータスの思いは、劇中盤にも描かれている。妻ポーシャの死を知ったブルータスが悲しみ、動揺する場面である。ブルータスと長年の友であるキャシウスでさえかつて見たことがないほどブルータスは怒り、悲しんでいることが分かる。普段は冷静なブルータスが、ある詩人の些細な行動に激昂するほど心が乱れていたのだと思われる。これらの場面から、ブルータスがどれほど妻を思い、愛した誠実な男であったか、読み取ることができる。

4. 周囲からの信頼

誠実で実直なブルータスは周囲からの信頼も厚かった。周囲のブルータスへ向けられた信頼と期待は、次のような場面から読み取ることができる。

CASCA O, he sits high in all the people's hearts,
And that which would appear offence in us
His countenance, like richest alchemy,
Will change to virtue and to worthiness. (1.3.157-160)

これは、キャシウスらシーザー暗殺計画者たちが、ブルータスを仲間に加えようと相談している場面である。キャスカのセリフから分かるように、ブルータスは民衆からも高い支持を得ている。常にローマのために尽くしてきたブルータスを仲間に加えることで、シーザー暗殺計画に少しでも正当性を持たせようとしているのだろう。これは彼の存在自体が「善」をもたらしていると言えるのではないだろうか。また、ブルータスの周囲に対する影響力は次のような場面で見ることができる。

CASSIUS But what of Cicero? Shall we sound him?
I think he will stand very strong with us.

...

BRUTUS O, name him not! Let us not break with him,
For he will never follow anything

That other men begin.

CASSIUS Then leave him out.

CASCA Indeed he is not fit. (2.1.140-153)

キャシアスの提案に、はじめは全員が賛成する。しかしそれにブルータスが反対すると、まるで手のひらを返すかのように全員が反対に転じる。この部分から、ブルータスの持つリーダー性、そして皆が彼に一目置いているということが分かる。ブルータスの存在がなければシーザー暗殺は計画通りいかなかっただろう。彼の存在こそが計画に正当性を持たせ、その計画の実行に至るまで導いていったのだと思う。

5. ブルータスの最期

ブルータスは、アントニーらとの戦いのなか、衝撃の自殺をもってその生涯を終える。しかし私は、ブルータスの最期こそ最も彼らしさが現れていたのではないかと思う。

Nay, I am sure it is, Volumnius.

Thou seest the world, Volumnius, how it goes.

Our enemies have beat us to the pit,

Low alarums

It is more worthy to leap in ourselves

...

Hold thou my sword hilts whilst I run on it.
(5.5.21-28)

これは、自ら命を絶つことを決めたブルータスのセリフである。ブルータスは、友人らが戦火の中で倒れていくのを見て、自分の事以上に心を痛めていたのだと思う。彼はもう自軍に勝つ見込みはなく、これ以上戦っても無益だと察したのである。私は、彼は自らの生き残った仲間を守るため、死を決めたのだと思う。自軍の武将である彼は最後まで命を狙われる。そうならば戦いは更に泥沼化し、更なる犠牲者を生んでしまう。それを避けるため、仲間を守るために死を選んだのだと思う。親友のキャシアスの死にも責任を感じていたのだろう。また、自ら死を選ぶことで敗北を避け、気高いブルータスのまま死にたかったのかもしれない。ブルータスという存在は、敵であるアントニーらにとっても一目置かれる存在であった。それは、次のような場面から読み取ることができる。

ANTONY This was the noblest Roman of them all.

...

OCTAVIUS According to his virtue let us use him,
With all respect and rites of burial. (5.5.67-76)

これは、敵であるブルータスを讃えるアントニーとオクテーヴィアスの会話である。ブルータスの高潔さと徳を讃え、その人間性を尊敬していることが読み取れる。ブルータスは自らの信念を貫き、自らの信じる正義のために命を落としていったと言えるだろう。死後、なおも敵軍から称賛されるほどの彼の人間性、品格はとても素晴らしいものであったに違いない。彼の死は、友人や部下、そしてローマを思う偉大な彼らしい最期であったと思う。

6. 結論

この劇の中心人物であるブルータスは、偉大で誠実、実直な男であった。彼の言動は常にローマのためを思ってなされており、誰もが認めるリーダー性と行動力を持ち、ローマのために生きていた。彼はシーザーを愛していたが、その野心にだけは目をつむることができなかったのである。それだけの正義感と使命感、そしてローマ人としての誇りを持っていたのだろう。

また妻や仲間、部下を思う優しい心を兼ね備え、多くの信頼を得ていた。強さと優しさを合わせ持つブルータスは、よく出来た人格者と言えるだろう。

ブルータスの理想は共和制であり、王による独裁を望んではいなかった。彼の考える正義は現代にも強く通じる部分があると思う。市民が平等であり、平和な時こそが幸福であるとブルータスは知っていたのだろう。古代ローマという戦乱の時代に生まれた彼は、何よりも共和制による平和を希求し、それを正義と考えたのではないだろうか。

『ジュリアス・シーザー』という作品において、ブルータスという存在はなくてはならない存在であった。彼の存在が劇全体をひきしめ、そして彼の動向によって物語は動かされていった。彼が主役といっても過言ではない。ブルータスという人物は、悩み、苦しみなながらも自らの正義を信じ、誰よりもローマのためを思って、生きようとした高潔な男であったのではないだろうか。

卒業生だより



図書館利用を通して

津波古 寿 美

文学部国文学科 2001年卒業

平成19年度沖縄県教員採用試験合格

卒業して以来3年間足が遠のいていた図書館を、私が再び利用し始めたのは、教員採用試験に向けて本腰を入れて勉強に取り組む友人に誘われたためである。恥ずかしい事に、それまでの私は一般利用の方法などを全く知らなかった。

一般利用者として来館してみると、思ったより簡単な手続きで1日利用者カードが発行でき、希望者は必要書類の提出で年間利用カードを作成できる事を知った。座席数も充実しているため、来館後はすぐに勉強を開始することができる。カウンターでの教職関係雑誌の貸し出しサービスは頻繁に利用した。過去2年分のバックナンバーが揃っているので、試験勉強にたいへん役に立つ。そして何より社会人にとって嬉しいのは、夜11時までの開館時間だろう。他館にはみられないサービスである。図書館以外に試験勉強でお世話になったものを紹介すると、就職課が主催する、在学生・卒業生向けの試験対策講座がある。一次試験対策は5月から7月までの全10回、2次試験対策は8

月に3日間、沖縄県の試験の特徴に沿った貴重な内容であった。

沖縄国際大学図書館を活用する一般利用者は多い。私は、おそらく私と同じような目標を持って来館しているであろう彼らの姿に親近感をおぼえ、そして刺激を受けながら勉強に励んできた。昨年ようやく合格を掴み取る事ができたが、試験の最中に嬉しかった事がひとつあった。教科は違い、それこそ名前も分からないのだが、図書館でよく勉強していた利用者を二次試験会場で見かけたのだ。同じように頑張ってきて努力が実ったのだと思うと、感動が胸に込み上げてきた。

以前の私のように、大学を離れてから図書館を利用していない人は多いかもしれない。しかし、大学や図書館はその充実した設備とサービスを以って、卒業してなお目標への歩みを応援してくれる。これからも多くの人が図書館を利用し、夢に近づけることを願う。



新図書館開館から10年目に向けて

前図書館次長 新 川 宣 安

新図書館（現在の図書館）を開館してからあと1年で10年になる。旧図書館（2号館）は昭和49年開館し約24年活躍したが、その間に資料の増加で書庫の狭隘化が著しく、また、学生数が増えたこともあり閲覧席が不足し、新図書館の建設となった。平成10年に開館した新図書館の建築の理念としてまとめられたのが「沖縄国際大学図書館新築計画の考え方・進め方」で、内容は次の通りとなっている。

(1) 大学教育と研究の頭脳・心臓部的役割を

担う図書館、(2) 教育及び研究と有機的に連結し、資料提供のできる図書館、(3) 情報化・国際化・マルチメディア等に対応する図書館、(4) 情報処理・データ構築の能力を有する図書館、(5) 将来90万冊の蔵書を有する図書館、(6) 古いもの新しいものを併有する図書館、(7) 沖縄関係資料及び東南アジア関係資料の提供できる図書館、(8) 建物のつくりは、近代的で明るい建物とし、しかも沖縄の地域性、民族性を考慮した建物とする(『でいご』 第33号)。

このようなコンセプトで建てられた新図書館(12号館)は、地下2階、地上4階の延床面積10,090㎡で閲覧席837席、PC・AVコーナー、スタジオ編集室、AVホールを擁した近代的な図書館である。図書館システム、入館システム、CD-ROMサーバー等、どれをとっても電子機器と関連している。また、この新図書館開館時(平成10年3月現在調査)の蔵書は約23万冊であったが、8年後の平成18年3月の時点では35万冊に達している。1年間に約1万5千冊増加したことになる。そして現在、中長期計画(5ヵ年)を進めており、その中で学生用基本図書の充実や館内における情報・視聴覚機器等のリプレイスも含めてさらに充実を図る予定である。

図書館における情報化の進展は著しい。平成4年に初代の図書館システムを導入し学術情報センターのNACSIS-CATによる目録作成業務を開始し、平成5年4月から貸出業務を含めて運用を開始したものである。そして、平成10年の新図書館開館と同時に二代目のシステム(CILIUS)が稼動し、平成15年には3代目のシステム(NALIS)を導入した。システム環境の進化がありインターネット上からの図書予約やILLの申込み、多言語対応、自動貸出機の導入など、適宜、ニーズに対応した図書館サービスの向上と業務の迅速化が図られた。そして平成19年度は次期システムの検討に入ることになる。また、DVD/CD-ROMサーバーの更新も適宜行い、増大する電子資料に対応したサービスを提供し、学内LANからの利用も可能にしている。平成18年度からは新たに電子ジャーナルの導入を図り、デジタル資料の利用環境が一層向上した。また、館内では従来のOPAC(オンライン蔵書目録)検索と、平成17年12月には新たに連想検索OPACが稼動し、蔵書検索システムの充実を図っている。その他に、学術成果リポジトリを平成18年4月に構築し、学内で生産された学術成果物を格納して、大学の情報発信基地としてインターネット上から検索できるように整備を進めているところである。本学図書館のオリジナルホームページは平成18年6月にリニューアルしたもので、図書館利用者サービスの拡大を目指すものである。図書館のポータルサイトとしての有益なコンテンツを収集し、利用者自身があらゆる情報検索ができるように内容の充実を図るものである。

図書館を取巻く情報環境は急速に進展する。あ

らゆる資料が電子化されインターネット上から利用できるようになった。国立国会図書館の所蔵資料検索(NDL-OPAC)や総合目録ネットワークシステム、それに商用や政府系機関のデータベースなどもそうであるが、特に国立情報学研究所の学術情報基盤事業の展開により、図書館の利用環境は大きく変化した。NII学術コンテンツ・ポータル(GeNii)の図書・雑誌情報、論文情報、研究成果情報、専門学術情報等は図書館サービスで欠かせない情報源であり情報リテラシー教育で必須のツールとなっている。ところが近年、目録所在情報において書誌や所蔵データベースの品質低下が懸念されている。これには目録担当者のスキルの問題があるといわれている。安定したサービスを行うには安定した目録・所蔵情報が必要になる。いかに担当者のスキルを確保するか各大学に問われている。個々の大学ではすべての利用ニーズをカバーできない。目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)の共同構築・共同利用の精神や各大学の連携がさらに重要となっている。共同構築事業は利用者でもある大学図書館として負担しなければならない。国立情報学研究所をはじめとして、図書館を取巻く環境は進化発展を続ける。

このように情報環境が変化する社会においては、学生の情報機器利用環境も変化している。いろいろな情報が氾濫し入手しやすい環境があることで、利用者である学生自身が目的に沿った情報や文献をより効果的に探索できる能力を習得させる必要がある。そこで、大学図書館は、学生自身で必要とする情報が収集できる場となる図書館を目指して資料や環境を整備することも必要となる。また、資料形態が多様化し、増大する各種情報資源にアクセスする方法などを利用者に伝え、情報と利用者を効率的に繋ぐ役割が図書館にはある。情報環境の変化に応じた図書館サービスが求められている。新入生図書館利用オリエンテーションは、教授会の理解が得られ平成元年度から実施しており、毎年、対象学生の約94%の学生が受講している。また、平成15年度から取組んだ文献検索ガイダンスは内容を充実させ、平成17年度からは図書館ワークショップとして実施している。図書館のオリジナルホームページを整備し、効果的な図書館活用法や論文検索法の指導を行っている。

高度化する社会における図書館の職員は、館内の機器の対応は当然であるが、社会における電子化の急速な進展や利用者の変化にも適切に対応す

る必要がある。そのためには資料に造詣が深く、目録及び分類の知識や情報通信技術の活用能力、プレゼンテーション能力、レファレンス能力等が求められる。図書館の内外に混在する紙媒体資料や電子資料、文字情報以外の資料など、多様化する資料から必要な情報を入手し、図書館サービスに役立てる能力が要求される。調査・研究の場としての図書館、学習の場としての図書館、創造する場としての図書館、もの想う空間としての図書館、保存図書館など、さまざまな顔を持つ図書館の役割と、新しい技術を駆使した情報提供の場、情報発信の場としての図書館が求められ、進化・

発展する社会の図書館として、それぞれの利用者に対応しなければならない。このような図書館の真価を発揮するためには人材の育成が最も重要であることを痛感している。

最後に、開館してから9年が経った新図書館では、高度化する図書館の機能に対応した図書館サービスの充実に努め、利用しやすい図書館を目指して職員が一丸となって取り組んでいる。学生自身が図書館で自分の居場所を見つけ、各自の図書館活用法をみだしてはいかがでしょうか。図書館はそれぞれの図書館活用法を支援している。

平成18年度 著者寄贈図書

書名情報	寄贈者名	書名情報	寄贈者名
不境不屈 / 黒潮武敬編著	黒潮武敬	研史 : いすゞ自動車・海外技術者研修協会沖縄技術研修生の歩み / いすゞ自動車技術研修史編集委員会編	比嘉堅
戦後沖縄農業・農政の軌跡と課題 / 高良亀友著	高良亀友	演技の精神史 : 中世芸能の言説と身体 / 橋本裕之著	橋本裕之
変動するインドネシア(2001-2005) : 政治・経済・社会関連インドネシア語雑誌記事・論文解説 / 高橋宗生編著	高橋宗生	現代の古典解析 : 微積分基礎課程 / 森毅著	森毅
生きるアート最高の可能性 : 琉球に眠るエネルギーが目覚めるとき / 高安六郎著	高安六郎	沖縄の平和学習とオルタナティブ教育 : 沖縄における同化と交流のゆらぎ / 柳下換著	柳下換
ホスピタリティが日本の教育を変える : 生徒も講師も生まれ変わる感動のエピソード / 馬場信治著	馬場信治	トライアド経営の論理 / 松崎和久著	松崎和久
法改正に伴う身体障害者更生相談所及び知的障害者更生相談所のあり方に関する研究 : 平成13年度~平成15年度総合研究報告書 厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業	飯田勝	日米コーポレート・ガバナンスの歴史的展開 / 新保博彦著	新保博彦
自然は愛しぜんはいのち = Nature is love nature is life / 陣内一土著	陣内一土	私の知る会計学者群像 / 新井益太郎著	新井益太郎
物流業界を揺さぶる大地殻変動 : 航空貨物業界を巻き込む新しい時代のつねり(合従連衡) / 阿部幸紀著	阿部幸紀	現代サービス経済論の展開 / 斎藤重雄著	斎藤重雄
移動の制約の解消が社会を変える : 誰もが利用しやすい公共交通がもたらすクロスセクター・ベネフィット / アンドリュー・フォークス、フィリップ・オクスレー、ブライアン・ヘイザー著 ; 関口陽一、関口みのり訳	関口陽一	地域新生の展望と実践課題 / 持田紀治著	持田紀治
よくわかる孟子 : やさしい現代語訳 / [孟子著] ; 永井輝 [訳]	長井輝	宮古芸能の系譜 / 平良重信著	平良重信
ベトナムの可能性 : ドイモイの『未来社会像』 / 鎌田隆著	鎌田隆	隼果 : 詩集 / 崔賢錫著	崔賢錫
The learning of English words by Japanese seventh-grade students by means of the keyword method / Kinjo, Mamoru	金城守	沖縄・ある編集者の軌跡 / 鳥袋和幸著	鳥袋和幸
悲喜の器 / 金城けい著	金城けい	日本人は何に注目して外国人の日本語運用を評価するか / 研究代表者小林ミナ	小林ミナ
書誌田川大吉郎 : その生涯と著作 / 遠藤興一著	遠藤興一	ウチナー障害者人権白書 / 宮城隆[著]	宮城隆
ハンセン病医療医学を学生教育に生かす視点 / 近藤功行研究代表者	近藤功行	コンドルの舞う国 : ポリビア移住記 / 安仁屋晶著	安仁屋晶
ママ、紙オムツヤメテ!! / 谷口祐司著	谷口祐司	知る権利 / 奥平康弘著	奥平康弘
米軍統治と公社事業 : 内側から見た戦後沖縄の電信電話 / 識名朝清著	識名朝清	前進できぬ駒はない! : 新人王戦熱血譜のドラマ 棋士の強さとは何か / 奥山紅樹著	奥山紅樹
金融制度と組織の経済分析 : 不良債権問題とポストバブルの金融システム / 藤原賢哉著	藤原賢哉	経営における情報活用と経営科学 / 大村雄史著	大村雄史
沖縄の道州制 Q&A : 全国の道州制の先行モデルとして / 藤中寛之編	藤中寛之	繁栄の法 : 未来をつくる新パラダイム / 大川隆法著	大川隆法
源氏物語のエクリチュール : 記号と歴史 / 葛綿正一著	葛綿正一	沖縄県で学ぶ日本語学習者と環境との相互作用に関する研究 : 平成15年度・16年度調査報告書 / 言語学習環境調査研究グループ [編]	大城朋子
少年法改正の争点 : 司法福祉と児童福祉の課題は何か / 若穂井透著	若穂井透	税務会計の理論的展開 / 大城建夫著	大城建夫
Exact expressions of expectations for the statistics by random samples from a stratified finite population / Yoshiaki Funatsu = 層化有限母集団からの無作為標本による統計量に対する期待値の精密公式集 / 船津好明著	船津好明	中国の国有企業改革と労働・医療保障 / 塚本隆敏著	塚本隆敏
未来から選ばれる企業 : オムロンの「感知力」経営 / 立石義雄著	立石義雄	機縁の友 : 生活のなかで育てる平安の道 / 堀田和成著	堀田和成
郷土愛について : 埋もれた法の探訪者の生涯 / ヤーコブ・グリム[著] ; 稲福日出夫編訳	稲福日出夫	道教的密教的辟邪呪物の調査・研究 / 大形徹, 坂出祥伸, 頼富本宏編	坂出祥伸
購買革新のマネジメント : 企業間取引における信頼の形成 / 神田善郎著	神田善郎	高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究 / 研究代表者 坂元昂	坂元昂
中村不折旧蔵禹域墨書集成 : 台東区立書道博物館所蔵 / 磯部彰編集	磯部彰	マルクス剰余価値論の勉強法 : 機能価値論からの批判 / 合田昌文著	合田昌文
気候変動と国内排出許取引制度 / 田中彰一著	田中彰一	リージョンの時代と島の自治 : パルト海オーランド島と東シナ海沖縄島の比較研究 / 古城利明編	古城利明
持続可能な地域社会実現への計画と戦略 / 田中廣滋編著	田中廣滋	紅型に秘された折り : 今、明かされる紅型の秘密 / 佐久本邦華, 又吉光邦著	又吉光邦
生きる為に(まな)修ぶ : ない故に、満足がない / 漢源彩著	漢源彩	名人に香車を引いた男 : 升田幸三自伝 / 升田幸三著 ; 田村龍騎筆録	升田幸三
20世紀最悪共産カンボジアポルポト政権と戦うベトナム兵士 / 源ピンロイ著	源ピンロイ	会計理論研究 / 伊礼武志著	伊礼武志
世羅博昭先生御退任記念論集	渡辺春美	樹下石上 : 四行詩集 / 仲嶺眞武著	仲嶺眞武
沖縄における土地と観光資源・環境の調和的開発・利用の研究 / 渡久地朝明研究代表	渡久地朝明	異風な目から : 折々の思いと言葉を綴って / 中原俊明著	中原俊明
モノづくりのマネジメント : 人を育て企業を育てる / 浅井紀子著	浅井紀子	須磨寺「當山歴代」 : 撰津国八郡都福祥寺古記録 / 三浦真厳編纂	三浦真厳
一天四海 : 比嘉美智子歌集 / 比嘉美智子著	比嘉美智子	A rabbit's eyes / by Kenjiro Haitani ; translated by Paul Sminkey	ポール・スミンキー

モーツァルト生誕250年記念行事開催 オペラ作品連続上映会とギター演奏会の夕べ

平成18年度図書館文化活動の一環として、モーツァルト生誕250年に因み記念の行事を図書館AVホールで開催した。モーツァルトのオペラ作品4作を11月20日から24日まで(23日の勤労感謝の日を除く)4日間上映した。行事最終日の25日は、本学卒業生の佐野周作氏と県内で活躍するクラシックギター界の第一人者、牧野哲二氏によるギター演奏会を行った。オペラ作品は、『フィガロの結婚』『魔笛』『コシ・ファン・トゥッテ』『後宮からの誘拐』を、ギター演奏は、オペラ作品に因んだ曲を中心に現代曲を交え17曲、アンコールには沖縄メロディーも加えるなど、会場は60名を越える熱心な聴衆で盛況だった。(学報47号でも紹介)



「アーサー王伝説の旅」講演会

12月20日(水)、池田正孝氏(中央大学名誉教授、東京こども図書館理事)を招き、「アーサー王伝説の旅」の講演会を開催した。講演で氏は、アーサー王伝説の歴史と作品解説の後、ご自身がアーサー王伝説に縁のある地を回って撮られたスライド写真から、イギリスとフランス(ブルターニュ地方)を中心に上映しながら、アーサー王とケルト文化について解説された。池田氏は、昨年12月の「星の王子さまの旅」に次いで2度目の来館講演で、今回は総合文化学部英米言語文化学科と図書館の共催となった。



台湾東海大学学長が図書館を視察

本学と学術協定を締結している台湾東海大学の程海東校長が、平成18年5月29日(月)、渡久地朝明学長を表敬訪問された後、図書館を視察された。図書館ではAVホールや電動書架に関心を示され、使用方法などについて質問されていた。

武田一博図書館長が講演 (沖縄県大学図書館協議会総会)

平成18年度沖縄県大学図書館協議会の総会が、平成18年7月28日(金)、本学の当番で図書館4階AVホールに於いて開催された。総会では、事業報告、予算・決算等の審議が行われた。その後、本学の武田一博図書館長が「脳と図書館 心の哲学から考える」と題して講演を行った。武田図書館長は、人類進化のプロセスでの主役は脳であるが、脳の進化は2万年前に止まっている。情報は脳にストックされても全てを引き出すのは難しい。そこで人類は、文字を書き残すことによって進化した。文字で残した膨大な情報を組み立てるには本が必要となった。その本を組織化し利用に供する図書館は人類の知の遺産といわれる。図書館は人類の進化に必要である、と話された。電子化された情報が氾濫するなか、図書の必要性を説かれた。情報化が進展する図書館環境を考える上でも興味ある講演となった。



嘉数津子様からの寄付金による 教育関係資料の整備

平成15年10月、嘉数津子様から図書館の図書購入費として特別寄付(100万円)があり、図書の選書に当って図書委員会で調整した結果、嘉数様の志を受けて教育に関する資料を整備することにした。このほど整備した資料の内容は、「ジャン・ジャック・ルソー関係」、「子どもの権利条約関係」、「平和教育、平和学習関係」、「占領期教育指導者講習研究収録」等の図書323冊で、早速、整理し利用に供した。学生、教員の勉学・研究資料として広く活用されることが望まれる。



台湾東海大学学長が図書館を視察する様子



高校生の「就業体験」

高校生の就業体験として、普天間高等学校生と浦添高等学校生を受け入れた。沖縄県の若年者総合雇用対策を推進する事業の一環で、沖縄県教育委員会と沖縄県キャリアセンターが連携し、高校生の健全育成、就業観の向上等に資するために実施されているものである。図書館の開館準備から、図書の受入・整理業務、貸出、返却、配架作業など図書館業務全般を体験してもらった。両校生徒の感想等は次のとおり。



普天間高等学校生

普天間高等学校2年生4名は、平成18年7月25日(火)と26日(水)に訪れた。図書館司書に興味があることで図書館の就業体験を希望した生徒とスポーツ系クラブ所属の生徒もいて積極的に作業に取り組んでいた。利用者側からは見えない裏側の業務まで体験した生徒から、集中力と忍耐力がいる仕事だ。人のために動くことが働くことに結びついていること。司書がいて利用者は気持ちよく利用できていることを知った、などの感想があった。本学の武田図書館長から、社会の動きや仕事の表側と裏側も体験し、社会のイメージをつかむことで将来に役立てて下さいと激励した。

浦添高等学校生

浦添高等学校2年生4名は、11月9日(木)と10日(金)に訪れた。図書館の仕事に興味を持っていることで図書館での就業体験を希望したということだけあって、熱心に取り組んでいた。作業のできる軽装で出勤(登校)した生徒達は、二日間フルに働いて図書館業務全般に渡って学んだ。生徒からは、利用者に配慮した心遣いの大切さや、働くことの大変さや楽しさも学ぶことができ、自身の進路について考える時期でもあり参考になった、と感想が寄せられた。

高校生のインターンシップ



図書館見学・視察一覧(平成18年度)

月日	行事・来館者	内容(目的等)
6月12日(月)	志真志小学校3年生10名	施設見学(校外学習)
6月13日(火)	陽明高等学校生80名	進路体験学習
6月14日(水)	陽明高等学校生40名	進路体験学習
6月15日(木)	陽明高等学校生80名	進路体験学習
7月3日(月)	久米島高等学校生12名	進路体験学習
7月25日(火)~ 7月26日(水)	普天間高等学校生4名	就業体験学習
8月12日(土)	沖縄国際大学後援会北部支部評議委員18名	施設見学・研修
10月5日(木)	嘉数中学校2年生5名	職場体験学習
10月16日(月)	具志川高等学校生85名	進路体験学習
11月9日(木)~ 11月10日(金)	浦添高等学校生4名	就業体験学習
12月4日(月)	韓南大学校職員3名	施設見学・研修
12月7日(木)	松山大学副学長平田桂一氏 他4名	施設見学
3月23日(金)	同志社大学学校図書館研究会8名	施設見学

嘉数中学校生「職場体験」

宜野湾市立嘉数中学校2年生5名が、平成18年10月5日(木)、体験学習で本学図書館を訪れた。宜野湾市が勤める「若者の自立・挑戦のためのアクションプログラム」の一環で、中学生職場体験学習「キャリア・スタート・ウィーク」として実施されているもので、職員の指導を受けながら業務に取り組んだ。図書館業務全般にわたって体験した生徒からは、思っていたより多くの仕事があった。司書の仕事は忙しい仕事だと思った。このような仕事があって本が借りられることを知った。仕事後の達成感があった、などの感想があった。本学の武田図書館長からは、社会活動を体験し、どのような人たちで支えられているか良く見てほしい。そして、社会のイメージをつかむことで将来に役立てて下さいと激励した。また、中学校の担当の先生からは、学校では学べないことを学ぶ良い機会となっているとして感謝のことばがあった。

志真志小学校3年生が図書館見学

宜野湾市立志真志小学校3年生10名が平成18年6月12日(月)、保護者と一緒に図書館を見学した。学校での総合的な学習の一環で校外学習の取組みとして本学を訪れたもので、職員からAVホールや電動書架の説明を受けた子どもたちは、早く大学生になって大きな図書館で勉強したいと感想を話していた。



中学生・小学生の体験学習

図書館活動(平成18年度)

月 日	行 事	内 容
4月3日(月)	図書館報「でいご」(40号)発行	
4月25日(火)	上映会	作品:『ホテル・ハイビスカス』
4月14日(金)	留学生対象図書館利用ガイダンス	利用オリエンテーション
4月24日(月)~ 5月31日(水)	平成18年度新入生 図書館利用オリエンテーション	利用オリエンテーション
5月31日(水)	上映会	作品:『ナイト・オン・ザ・プラネット』
6月19日(月)~ 7月7日(金)	図書館ワークショップ (学部生3年次・4年次・大学院生)	ステップアップガイダンス
7月14日(金)	上映会	作品:『プロジェクトX 炎を見る赤き城の伝説』
7月25日(火)~ 7月26日(水)	「就業体験」	普天間高等学校2年生4名
8月28日(月)~ 8月31日(木)	蔵書点検	バックナンバー(和書・洋書)の点検
9月25日(月)	上映会	作品:『ロード・オブ・ザ・リング』
10月5日(木)	「職場体験学習」	嘉数中学校2年生5名
11月9日(木)~ 11月10日(金)	「就業体験」	浦添高等学校2年生4名
11月13日(月)	上映会	作品:『エリン・プロコピッチ』
11月20日(月)~ 11月25日(土)	モーツァルト生誕250年記念オペラ作品上映会・ ギター演奏会	11/20(月)『フィガロの結婚』 11/21(火)『魔笛』 11/22(水)『コシ・ファン・トゥッテ』 11/24(金)『後宮からの誘拐』 11/25(土)ギター演奏会 演奏者:佐野周作(本学卒業生) 牧野哲二(在邦覇 ギタリスト)
12月20日(水)	講演会	「アーサー王伝説の旅」講師 池田正孝(中央大学名誉教授) 東京子ども図書館理事
12月22日(金)	平成18年度 書評・映画評賞入賞者表彰式	優秀賞 伊禮 司(法学部法律学科4年次) 池宮沙織(総合文化学部英米言語文化学科3年次) 佳 作 大城奈保(総合文化学部人間福祉学科3年次) 嵯峨根葵(法学部法律学科1年次) 仲村 緑(経済学部地域環境政策学科2年次) 儀間弘子(総合文化学部人間福祉学科1年次) 福里愛子(総合文化学部日本文学学科3年次) 新垣美野(法学部法律学科1年次)
1月11日(木)	図書館ワークショップ(夜間主学生)	ステップアップガイダンス

窪コレクション、坂出コレクションの整備

窪徳忠氏（東京大学名誉教授、本学南島文化研究所特別研究員）、坂出祥伸氏（関西大学名誉教授）の両先生が蒐集された道教関係の神像、法具などのコレクションを整備した。資料は両先生から寄贈して頂いたもので、窪コレクション201点、坂出コレクション79点となっている。資料の整理は、本学非常勤講師の稲福政斉先生の指導を仰ぎ、社会文化学科の学生が中心となって作業を進めた。同コレクションは、図書館4階の多目的ホールに展示し公開している。



「米軍ヘリ墜落事故関係資料コーナー設置」プロジェクト会議

2004(平成16)年8月13日(金)、本学へ米軍ヘリが墜落炎上した事件の記録を残し、後世へ伝えるとともに、平和学習などに活用が図れるよう、「米軍ヘリ墜落事故関係資料コーナー」を図書館内に設置することを、平成18年度第4回の図書委員会で決定した。それに従い、プロジェクトチームを立ち上げて資料収集などを進めることになり、第1回プロジェクト会議を平成18年11月21日(火)に開催し、学内関係者に協力を呼びかけるなど、情報収集に取りかかった。図書館では、学内外からの情報提供をお願いしている。

図書館防災訓練実施

平成18年度の防災訓練は、第1回目、平成18年6月2日(金)、第2回目は12月1日(金)に実施した。多様化する図書館職員(専任、非常勤、派遣、学生バイト)と警備員が協力して行動し、図書館の防災機器、消化設備の対応、利用者の避難誘導等の訓練と消火器を使用して実際の火を消す実習をした。職員の日ごろからの防災意識を高めることで、平成13年度から年2回の頻度で実施している。



心理カウンセリング専攻学生のポスターセッション

人間福祉学科心理カウンセリング専攻2年生の心理学基礎演習の四つのゼミ(岡本、平山、前堂、財部)による合同ポスターセッションが、平成19年1月29日(月)、図書館4階多目的ホールで行われた。前期に基礎学習として実験や検査のレポート作成方法を学び、後期の前半に調査方法・質問紙の作成法を学んだ後、後期の後半に調査の実施、データの集計・分析を行い、その集大成としてポスター発表会を行ったものである。発表は、第1部9グループ、第2部7グループ、第3部8グループ、第4部8グループで行われた。発表者は2年生、参加者は1年生から4年生までで、発表者の各ボードでは、活発に質疑応答が行われた。



図書館職員が永年勤続者として表彰される(九州地区大学図書館協議会)

図書館の新川宣安(当時次長)が図書館勤務20年の永年勤続者として、第57回九州地区大学図書館協議会総会(平成18年4月21日)に於いて表彰された。鹿屋体育大学図書館の当番により、かごしま県民交流センターで開催されたもので、受賞者12名を代表して表彰状が授与された。新川前図書館次長は、3度目の図書館勤務で永年勤続者の評価がなされたもので、本学図書館では幸地冨子さん、横田栄子さんについて3人目の受賞である。



選書委員会を設置

図書館資料の一般図書は、予算を教員数に配分し各教員が主となって選書してきたが、基本図書のさらなる充実を図る必要があり、選書委員会を立ち上げて全学的な立場から学生用などの図書の選書をするようになった。第1回目の選書委員会は平成18年11月21日(水)に開催され、月2回のペースでその後も開かれている。

平成17年度 図書館統計

図書資料構成

(H18.3.31現在)

区分	種別	計		合計 (冊)	
		和書	洋書		
共通科目	総記	27,133	3,864	30,997	
	人文科学	32,413	4,927	37,340	
	社会科学	9,092	1,342	10,434	
	自然科学	17,553	1,878	19,431	
	計	86,191	12,011	98,202	
	外国語	英語	1,888	1,032	2,920
		ドイツ語	1,824	1,147	2,971
		フランス語	1,740	1,276	3,016
		その他	563	242	805
	計	6,015	3,697	9,712	
	保健体育	2,092	59	2,151	
	教職科目	14,890	1,193	16,083	
	A 合計	109,188	16,960	126,148	
専門科目	法律	26,827	11,012	37,839	
	地域行政	13,357	2,405	15,762	
	経済	23,052	7,501	30,553	
	地域環境政策	9,176	1,542	10,718	
	企業システム	21,539	7,201	28,740	
	産業情報	8,398	645	9,043	
	日本文化	36,549	1,038	37,587	
	英米言語文化	11,239	15,671	26,910	
	社会文化	13,713	3,750	17,463	
	人間福祉	9,921	2,299	12,220	
B 合計	173,771	53,064	226,835		
A + B 合計	282,959	70,024	352,983		
郷土資料	(25,790)	(419)	(26,209)		
参考図書	(33,501)	(4,673)	(38,174)		
学位論文	(174)	(3,273)	(3,447)		
科研費研究成果	(110)	(1)	(111)		
加除式資料	(154)	(28)	(182)		
視聴覚資料	マイクロフィルム	(11,511)	(1,881)	(13,392)	
	マイクロフィッシュ	(464)	(561)	(1,025)	
	スライド	36	1	37	
	カセットテープ	1,152	179	1,331	
	ビデオテープ	4,184	482	4,666	
	フロッピーディスク	272	2	274	
	ビクチャーカード	7	0	7	
	フラッシュカード	6	0	6	
	トランスパレンシー	6	0	6	
	コンパクトディスク	620	58	678	
	レーザーディスク	100	33	133	
	CD-ROM	223	36	259	
	レコード	0	0	0	
	ビクチャーチャート	6	0	6	
	電子辞書	8	0	8	
	DVD	1,036	36	1,072	
	DVD-ROM	35	0	35	
その他	36	0	36		
資産合計	(12,653)	(2,456)	(15,109)		
資産外合計	7,049	813	7,862		
合計	19,702	3,269	22,971		

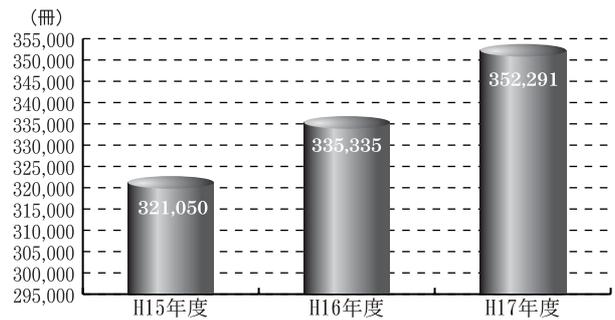
() 内は内数を表す。

学術雑誌資料構成

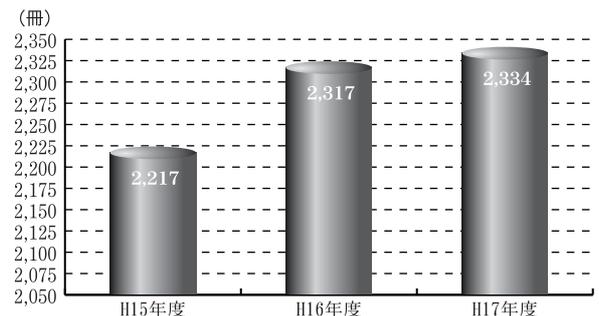
(H18.3.31現在)

区分	種別	学術雑誌数			
		和書	洋書	計	
共通科目	総記	593	28	621	
	人文科学	136	28	164	
	社会科学	58	13	71	
	自然科学	76	13	89	
	計	863	82	945	
	外国語	英語	2	0	2
		独語	3	3	6
		仏語	2	5	7
		その他	0	0	0
	計	7	8	15	
	保健体育	18	0	18	
	教職科目	56	16	72	
	小計(A)	944	106	1050	
専門科目	法律	193	65	258	
	地域行政	51	15	66	
	経済	222	60	282	
	地域環境政策	33	5	38	
	企業システム	128	37	165	
	産業情報	43	12	55	
	日本文化	80	1	81	
	英米言語文化	62	81	143	
	社会文化	91	40	131	
	人間福祉	48	17	65	
小計(B)	951	333	1284		
合計(A)+(B)	1895	439	2334		

年度別図書館資料構成



年度別学術雑誌資料構成



平成17年度 図書館利用状況

1 学科別図書貸出利用状況

学部	学科	図書貸出	
		冊数	人数
法学部	法学科	79	37
	法律学科	5,009	2,671
	地域行政学科	4,012	2,217
	法学部計	9,100	4,925
商経学部	経済学科	3,070	1,557
	商学科	2,487	1,305
	商経学部計	5,557	2,862
経済学部	経済学科	895	512
	地域環境政策学科	1,200	681
	経済学部計	2,095	1,193
産業情報学部	企業システム学科	832	508
	産業情報学科	828	493
	産業情報学部計	1,660	1,001
文学部	国文学科	3	1
	英文学科	18	6
	社会学科	56	23
総合文化学部	文学部計	77	30
	日本文化学科	9,254	4,790
	英米言語文化学科	7,533	3,313
	社会文化学科	6,701	3,306
	人間福祉学科	11,501	5,698
総合文化学部計	34,989	17,107	
学部計	53,478	27,118	
法学研究科	法律学専攻	241	98
地域産業研究科	地域産業専攻	637	256
	南島文化専攻	727	330
地域文化研究科	英米言語文化専攻	162	59
	人間福祉専攻	1,369	573
大学院計	3,136	1,316	
その他	研究生	0	0
	科目等履修生	806	399
	その他講習生	78	59
	学外生	170	106
	専任教員	3,248	609
	非常勤教員等 事務職員等	637 962	235 606
その他計	5,901	2,014	
合計	62,515	30,448	

2 学外者の図書館利用状況

項目	人数
他大学学生	6,691
他大学研究者	445
その他研究者	322
研究所員	3,616
本学卒業生	19,805
専門学校生	4,986
司書講習・その他講習生等	2,744
一般・その他	33,498
合計	72,107

3 文献複写利用状況

項目	件数	枚数
学内者	5,391	38,653
学外者	992	11,548
合計	6,383	50,201

4 参考業務状況

区分	人数				比率
	学生	教職員	学外者	合計	
文献所在調査	461	20	129	610	17.3%
事項調査	76	9	14	99	2.8%
利用指導	2,344	20	461	2,825	79.9%
合計	2,881	49	604	3,534	100.0%

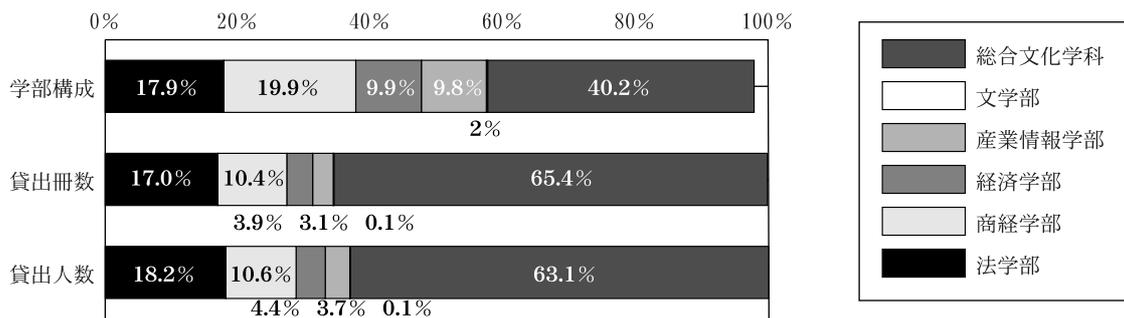
5 開館日数・入館者数状況

開館日数	316日
入館者数	393,604人

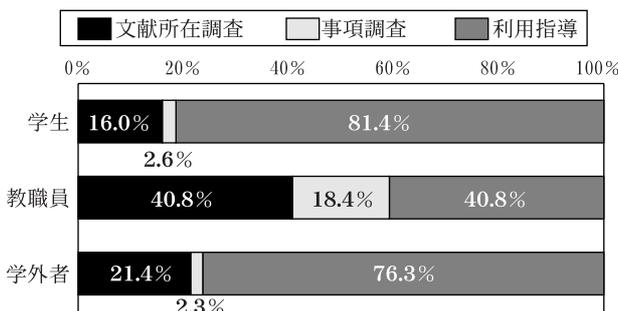
6 相互利用(I L L)状況

相互利用	件数		
	依頼	受付	計
相互利用	1,181	589	1,770

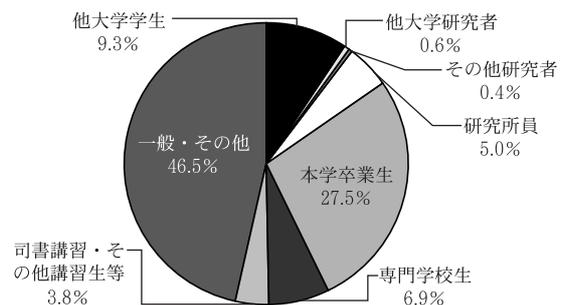
学部別図書貸出比率



参考業務内訳比率



学外者の図書館利用状況



平成17年度 図書館利用状況

7 学年別図書貸出状況

一部

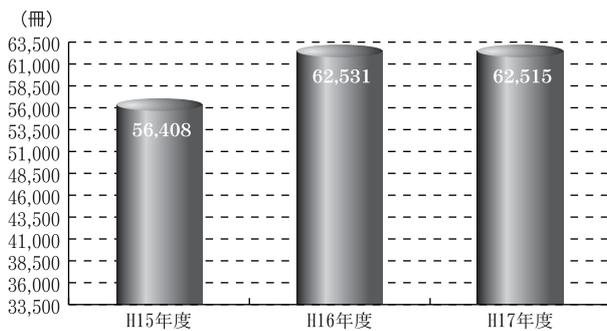
年次 (一部)	学生数	貸出冊数	貸出人数	一人当貸出冊数	一回当貸出冊数	一人当貸出回数
1年	1,419	10,748	6,180	7.6	1.7	4.4
2年	1,436	11,533	6,367	8.0	1.8	4.4
3年	1,240	14,630	7,236	11.8	2.0	5.8
4年	1,263	16,431	7,256	13.0	2.3	5.7
全学年	5,358	53,342	27,039	10.0	2.0	5.0

二部

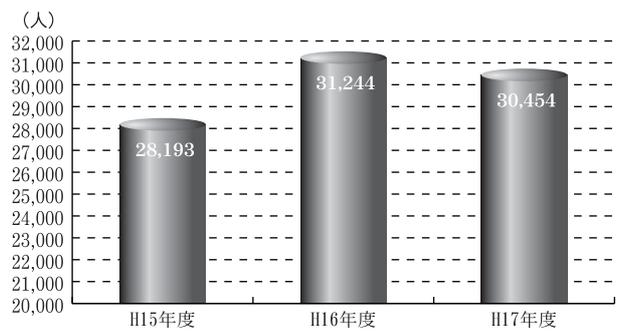
年次 (二部)	学生数	貸出冊数	貸出人数	一人当貸出冊数	一回当貸出冊数	一人当貸出回数
2年	3	0	0	0.0	0.0	0.0
3年	131	36	21	0.3	1.7	0.2
4年	200	100	49	0.5	2.0	0.2
全学年	334	136	70	0.4	1.9	0.2

- ・一人当貸出冊数 = 貸出冊数 / 学生数
- ・一回当貸出冊数 = 貸出冊数 / 貸出人数
- ・一人当貸出回数 = 貸出人数 / 学生数
- ・学生数 : 平成17年5月1日現在

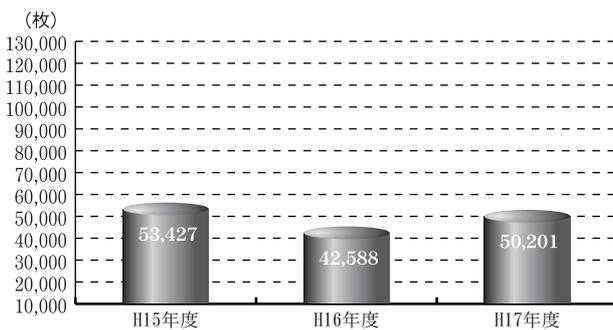
年度別図書貸出冊数



年度別図書貸出人数



年度別文献複写利用状況



年度別参考業務状況

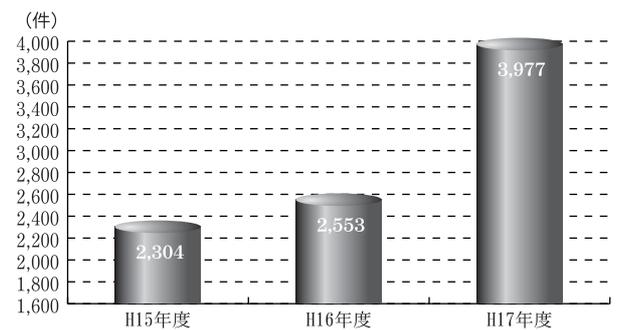


図 書 館 短 信

平成18年度館員の研修・ 研修会等出張の動静

No	名 称	期 間	場 所	参 加 者
1	2006(平成18)年度第1回私立大学図書館協議会西地区部会九州地区協議会	2006(平成18)年 4/20(木)	鹿児島城山観光ホテル 当番校:鹿児島国際大学	館長 武田一博 次長 新川宣安
2	第57回九州地区大学図書館協議会総会	4/21(金)	鹿児島県民交流センター 当番校:鹿屋体育大学	館長 武田一博 次長 新川宣安
3	沖縄県図書館協会理事会	5/12(金)	沖縄県立図書館	次長 新川宣安
4	私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会 2006(平成18)年度第1回定例幹事会	5/26(金)	コンパルホール(大分) 理事校:九州東海大学 当番校:日本文理大学	次長 新川宣安
5	沖縄県図書館協会理事会	5/30(火)	沖縄県立図書館	次長 新川宣安
6	沖縄県図書館協会機関誌部会	6/6(火)	沖縄県立図書館	係長 中山かつら
7	沖縄県大学図書館協議会企画委員会	6/7(水)	琉球大学附属図書館	係長 宮国克枝
8	私立大学図書館協会西地区部会2006年度総会	6/16(金)	広島修道大学	館長 武田一博
9	沖縄県図書館協会総会・講演会	6/27(火)	沖縄県立図書館	次長 新川宣安
10	沖縄県図書館協会機関誌部会	7/11(火)	琉球大学附属図書館	主任 嶺井かおり
11	沖縄県図書館協会理事会	7/25(火)	沖縄県立図書館	次長 新川宣安
12	沖縄県大学図書館協議会総会・講演会	7/28(金)	沖縄国際大学図書館	館長 武田一博 他図書館員
13	沖縄県図書館協会機関誌部会	8/15(火)	沖縄国際大学図書館	主任 嶺井かおり
14	私立大学図書館協会西地区部会九州地区研究会・ 見学会	8/24(木)~ 8/25(金)	日本文理大学・トキ八会館 (大分)	係長 久場 剛
15	目録システム地域講習会(図書コース)	9/6(水)~ 9/8(金)	琉球大学附属図書館 講師補助:嶺井かおり	係長 久場 剛 係長 宮国克枝
16	第67回(2006年度)私立大学図書館協会総会・ 研究大会	9/7(木)~ 9/8(金)	関西学院大学	館長 武田一博
17	国立情報学研究所 ILL システム講習会	9/14(水)~ 9/16(金)	広島大学	係員 崎原 梢
18	目録システム地域講習会(雑誌コース)	9/20(水)~ 9/22(金)	岡山大学附属図書館	主任 比嘉綾子
19	学術情報セミナー	10/6(金)	九州大学	係長 久場 剛
20	私立大学図書館協会2006年度西地区部会研究会	10/14(土)	近畿大学(東大阪市)	係長 久場 剛
21	平成18年度大学図書館職員講習会	10/17(火) 10/20(金)	京都大学附属図書館	主任 嶺井かおり
22	沖縄県大学図書館協議会企画委員会	10/25(水)	琉球大学附属図書館	係長 宮国克枝
23	平成18年度学術情報リテラシー教育担当者研修	11/8(水)~ 11/10(金)	国立情報学研究所	係員 幸地 良
24	平成18年度沖縄県大学図書館協議会「ILL担当 者情報交換会」	11/29(水)	琉球大学附属図書館	係員 崎原 梢
25	平成18年度目録システム講習会(雑誌コース)	12/6(水)~ 12/8(金)	国立情報学研究所	係員 幸地 良
26	私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会 2006(平成18)年度第2回定例幹事会	12/8(金)	西南女学院大学	次長 新川宣安
27	平成18年度図書館等職員著作権実務講習会	12/13(水)~ 12/15(金)	福岡市教育センター	係員 崎原 梢
28	沖縄県大学図書館協議会講演会	1/26(金)	琉球大学附属図書館	館長 武田一博 他図書館員

図書委員会の動向

1. 平成19年度 図書委員会委員一覧

	学科名	氏名	任期
1	法律学科	井村 真己	H18.4.1~H20.3.31
2	地域行政学科	小西 由浩	H18.4.1~H20.3.31
3	経済学科	松崎 大介	H18.4.1~H20.3.31
4	地域環境政策学科	島袋 伊津子	H18.4.1~H20.3.31
5	企業システム学科	佐久本 朝一	H19.4.1~H20.3.31
6	産業情報学科	平良 直之	H18.4.1~H20.3.31
7	日本文化学科	吉田 肇吾	H19.4.1~H21.3.31
8	英米言語文化学科	森 庸夫	H18.4.1~H20.3.31
9	社会文化学科	澤田 佳世	H19.4.1~H21.3.31
10	人間福祉学科	安次富 郁哉	H19.4.1~H21.3.31
11	図書館学担当教員	山口 真也	H19.4.1~H21.3.31
12	図書館長	武田 一博	職責委員
13	図書館次長	門口 政秀	職責委員
14	図書館課長	金城 智子	幹事

2. 平成18年度図書委員会開催状況

第1回 平成18年4月14日(金)図書館4階学習室

報告事項

- (1) 平成18年度図書委員会構成について
- (2) 平成17年度図書館利用状況について
- (3) 坂出祥伸関西大学名誉教授(道教関係資料寄贈者)の図書館訪問について

審議事項

- (1) 図書委員長に事故あるときの職務代行者の選出について
- (2) 平成18年度図書発注業者について
- (3) 寄贈図書の入金について

連絡事項

- (1) 「2006年度学術雑誌購入希望明細書」の提出について
- (2) 上映会について
- (3) 新入生図書館オリエンテーションについて
- (4) 平成18年度「図書整備計画書」及び「指定図書申込書」の提出締切日の変更について

第2回 平成18年6月9日(金)図書館4階学習室

報告事項

- (1) 平成17年度図書費執行状況について
- (2) 平成17年度図書及び学術雑誌資料構成一覧について
- (3) 平成17年度図書館利用状況について
- (4) 平成17年度学外者の図書館利用カード申請者集計について
- (5) 平成17年度、平成18年度指定図書申請状況について
- (6) 平成18年度図書整備計画書提出状況について
- (7) 平成18年度新入生図書館利用オリエンテーションの実施状況について
- (8) 平成18年度図書館ワークショップについて
- (9) 私立大学図書館協議会2006(平成18)年度第1回九州地区協議会及び第57回九州地区大学図書館協議会について
- (10) 平成17年度、平成18年度上映会の実施状況について
- (11) 図書館防災訓練について
- (12) 電子ジャーナル及びオンラインデータベースの導入状況について

審議事項

- (1) 寄贈図書の入金について(継続審議)
- (2) 寄贈図書の入金について(図書委員会申合せ)
- (3) 図書館主催(共催含む)の講演会の開催について(図書委員会申合せ)

意見聴取

- (1) 図書整備計画書について
- (2) 購入希望図書制度について

- (3) 指定図書制度について
- (4) 中・長期経営計画(第1次原案)について
- (5) ヘリ墜落事故関係資料の展示コーナーの設置について

参考資料

- (1) 私立大学九州地区協議会加盟大学図書館資料調査一覧(2005年)

連絡事項

- (1) 平成18年度図書整備計画書の提出について

第3回 平成18年7月14日(金)図書館4階学習室

報告事項

- (1) 私立大学図書館協会2006年度西地区部会総会について
- (2) 平成18年度図書館ワークショップについて
- (3) 平成18年度沖縄県大学図書館協議会総会及び講演会の開催について

審議事項

- (1) 「図書館規程」の一部改正(案)について
- (2) 「学外者の図書館利用内規」の一部改正(案)について
- (3) 平成18年度沖縄国際大学図書館 書評・映画評賞応募要領(案)について
- (4) 寄贈図書の受入冊数の変更について

意見聴取

- (1) 図書整備計画書について
- (2) 購入希望図書制度について
- (3) 指定図書制度について
- (4) 上映会について
- (5) ヘリ墜落事故関係資料コーナーの設置について
- (6) 「学術成果リポジトリ運用内規(制定案)」及び「各学部等への協力願い」について

連絡事項

- (1) 「図書整備計画書」の提出について
- (2) 「指定図書申込書(後期)」の提出について
- (3) EBSCOhost(エブスコホスト)データベース利用説明会

第4回 平成18年10月27日(金)図書館4階学習室

報告事項

- (1) 平成18年度私立大学図書館協会総会・研究大会出張報告について

審議事項

- (1) 学術機関リポジトリ制定(案)について
- (2) 図書館主催の催し(モーツァルト生誕250年記念上映会・演奏会)について
- (3) 寄贈図書の入金について
- (4) ヘリ墜落事故関係資料コーナーの設置について
- (5) 図書整備計画について

意見聴取

- (1) 地下2階書庫1の学内生産資料の取り扱いについて

連絡事項

- (1) 平成18年度沖縄国際大学図書館 書評・映画評賞の応募について

第5回 平成18年11月10日(金)図書館1階会議室

報告事項

- (1) 嘉数津子様からの寄付金による教育関係図書整備についての報告とお礼(教職課程主任)
- (2) ヘリ墜落事故関係資料コーナー設置プロジェクトチームについて
- (3) 寄贈図書の入金について
- (4) 図書館内における盗難事件について

審議事項

- (1) 図書整備計画について(継続審議)
- (2) 平成18年度沖縄国際大学図書館 書評・映画評賞の審査について

意見聴取

- (1) 指定図書制度について

連絡事項

- (1) 第6回図書委員会
- (2) 第7回図書委員会
- (3) 第1回選書委員会
- (4) 図書館主催 モーツァルト生誕250年記念上映会・演奏会について

第6回 平成18年11月24日(金)図書館1階会議室

報告事項

- (1) 第1回米軍ヘリ墜落事故関係資料コーナー設置プロジェクト会議について
- (2) 第1回選書委員会について

審議事項

- (1) 図書整備計画について(継続審議)
- (2) 指定図書制度について
- (3) 電子ジャーナルについて
- (4) 「アーサー王伝説の旅」講演会の開催について

連絡事項

- (1) 第7回図書委員会

第7回 平成18年12月15日(金)図書館1階会議室

報告事項

- (1) 第2回選書委員会について(委員の追加)

審議事項

- (1) 平成18年度沖縄国際大学図書館 書評・映画評賞の選考について
- (2) 地下2階書庫1の学内生産資料の取り扱いについて

連絡事項

- 第8回図書委員会
平成18年度沖縄国際大学図書館 書評・映画評賞の表彰式

第8回 平成18年12月22日(金)図書館1階会議室

報告事項

- (1) 平成17年度図書貸出状況について
- (2) 第3回選書委員会について

審議事項

- (1) 購入和・洋雑誌の廃棄について

第9回 平成19年3月2日(金)図書館1階会議室

報告事項

- (1) 平成18年度市立大学等研究設備整備費等補助金の交付内定について
- (2) 平成18年度市立大学等経常費補助金の交付内定について
- (3) 平成19年度新入学生対象図書館利用オリエンテーションについて
- (4) 平成19年度図書館ワークショップ(文献検索等ガイダンス)について

審議事項

- (1) 「学術リポジトリ運用内規(制定案)」について
- (2) 寄贈図書の受入れについて
- (3) 平成19年度私立大学等研究設備費等補助金の申請学科について

連絡事項

- (1) 「平成19年度指定図書申込書」の提出について
- (2) 「平成19年度図書整備計画申込書」の提出について
- (3) 「平成19年度共通科目関係図書」購入科目群について

平成18年度私立大学等研究設備整備費等補助金交付内定

文部科学省高等教育局長から、平成18年12月20日付け、次の通り交付内定通知があった。補助率66%。

学部学科	設備名	区分	事業経費	補助額	本学負担額
総合文化学部 社会文化学科	琉球史関連 重要文献・文書コレクションPart1	研究設備	4,980,000	3,320,000	1,660,000
法学部 地域行政学科	NSA アメリカ外交政策極秘文書 プレミアムコレクション	研究設備	9,900,000	6,600,000	3,300,000

人の動き

1. 定年退職

平成19年3月31日付
図書館次長 新川 宣安
(再任用職員<平成19年4月1日付>図書館副参事)

2. 昇任と配置換え

平成18年7月1日付

職名	氏名	前職名
情報センター課長	當 銘 弘 道	図書課長補佐
学生課厚生係長	中 山 か づ ら	図書課整理係長
図書課主任	比 嘉 綾 子	図書課係員
会計課係員	當 山 仁 健	図書課係員
図書課整理係長	久 場 剛	学生課学生係長
図書課係員	崎 原 梢	会計課係員
図書課係員	幸 地 良	学生課係員

平成19年4月1日付

図書館次長	門 口 政 秀	企画課長
図書課長補佐	久 場 剛	図書課整理係長

**電子ジャーナル及び
オンラインデータベースの整備**

平成17年度までは10種のオンラインデータベースを購読し利用に供していたが、平成18年度は、新たに電子ジャーナル1種(JSTOR:1200誌)、オンラインデータベース10種を導入した。利用できるタイトル数としては、有料のものが約1,200誌、無料のものが約2,000誌となった。平成17年度に各学科の希望調査を行い優先順位の高いものから整備したもので、今後は年次計画で充実を図る予定である。

利用しよう「図書購入希望申込」制度

学生の皆さんが、「読みたい、利用したい」と考えている本や視聴覚資料が本学図書館にない場合、図書館1階カウンター備え付けの『図書購入希望申込票』に必要な事項を記入のうえ、提出して下さい。選書委員会で大学図書館に相応しい資料と判断されたものは、できるだけ整備致します。

編集後記

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

今号は、書評・映画評賞から優秀賞2編を掲載しました。これまでの論文・エッセイ賞から書評・映画評賞として募集要項をあらたにした初年度であり、応募数は少なかったが内容は充実し、応募者の学科が増えバラエティに富んでいました。今年度は、是非みなさんも挑戦して、大学生としての証にしてみてください。自らの人生において何らかの契機になるも知れません。また、充実した学生生活を過ごすためにも、図書館を大いに活用してください。図書館は、学生それぞれの何かが発見できる場所だと思います。 前図書館次長 新川 宣安

